

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

研究進捗状況報告書の概要

1 研究プロジェクト

学校法人名	東邦大学	大学名	東邦大学
研究プロジェクト名	自己免疫疾患の制御をめざす研究拠点形成		
研究観点	研究拠点を形成する研究		

2 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

【目的・意義】自己免疫疾患は、T細胞をはじめとする免疫担当細胞の過剰な活性化により惹起される。本事業は、①自己免疫疾患発症にかかわる免疫担当細胞を活性化する異常蛋白を探索すること、②発症機序解明を進めることにより、疾患の病態を反映するバイオマーカーを同定すること、さらに、③病態に基づく異常蛋白やバイオマーカーを標的とした新薬創製、そして④プロバイオティクスを含めた疾患予防法へ展開させることを目的とする。

【研究計画】本事業は、基礎的検討を加える「自己免疫疾患に関わる細胞機能解析グループ」と臨床検討を主とする「自己免疫疾患病態解析グループ」とから構成され、臨床班では「膠原病、自己免疫性水疱症、血管の炎症性疾患患者の中に存在する蛋白」を検討する一方、基礎班において「T細胞や好中球などの免疫担当細胞の初期/成熟応答」を検討する。平成26年度から28年度までに基礎研究班では遺伝子発現を包括的に調節するSATB1と小児アレルギー・自己免疫疾患患者における好中球の機能解析を行う。臨床班では自己免疫疾患患者から検出されるサイトカインなどの種々のバイオマーカーを探索する。平成29年度からは、臨床検討で得られた免疫担当細胞の過剰な活性化に関与する蛋白に焦点をあて基礎的検討系を応用してその機能を確認する。そして、特定蛋白により惹起される免疫応答を抑制するための新規治療法・効率的予防法の創製を目指す。

3 研究プロジェクトの進捗及び成果の概要

本プロジェクトの4目標の内、主に以下の点で進捗をみ成果を得た。

①【免疫担当細胞を活性化する異常蛋白の探索】SATB1は胸腺における中心性免疫寛容を実行する重要分子であり、SATB1欠損マウスの自己免疫疾患は自己反応性T細胞が胸腺内で排除されず末梢に移行することで発症することを解明した。一方、好中球機能と小児アレルギーの発症契機となる感染症との関連について、小児においても好中球は感染後早期に活性化し、病原体の種類により免疫受容体発現、サイトカイン応答が異なることを証明した。

②【疾患病態を反映するバイオマーカー探索】細胞増殖・遊走、血管新生などに関わる分子であるミッドカイン(MK)は、関節リウマチ(RA)患者で有意に高値を呈し、疾患活動性や身体障害度、リウマトイド因子と正相関する。さらに、MKはヒト滑膜組織で発現し、滑膜細胞のIL-6やIL-8産生を誘導することを証明し、MKがRA病態形成に関与する有望な新規バイオマーカーとなりうることを提唱した。さらに、疾患活動性を反映するもう一つのバイオマーカー候補として、急性期川崎病の重症度を反映する他、炎症性腸疾患でも高値を示す血管細胞形質制御因子である可溶性LR11(sLR11)が見いだされた。

③【病態に基づく治療法の確立】Candida細胞壁由来物質による川崎病類似マウス系統的血管炎誘発モデルでは、TNF- α に加えてIL-6、KC/GROが血管炎発生と密接に関連し、抗TNF- α 抗体投与により血管炎発生は完全に抑止されることを証明した。また、落葉状天疱瘡患者から単離された種々の抗Dsg1モノクローナル抗体は協調してp38MAPK依存性に水疱形成に関与することが証明され、新たな治療戦略指針を示した。

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

**平成 26 年度選定「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究進捗状況報告書**

1 学校法人名 東邦大学 2 大学名 東邦大学

3 研究組織名 自己免疫疾患先端医療技術センター

4 プロジェクト所在地 東京都大田区大森西 5-21-16

5 研究プロジェクト名 自己免疫疾患の制御をめざす研究拠点形成

6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
高橋 啓	医学部 病院病理学講座(大橋)	教授

8 プロジェクト参加研究者数 31 名

9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
高橋 啓	東邦大学医学部医学科 (病院病理学講座)・教授	難治性血管炎発症における Th17 細胞の関与と新規治療法の開発	共生真菌由来血管炎発症における Th17 分化機構解析と制御法創製
宮崎 修一	東邦大学医学部医学科 (先端医科学研究センター)・教授	自己免疫疾患における好中球機 能解析と制御機構解析	小児由来好中球機能解析と制御技 術の開発
近藤 元就	東邦大学医学部医学科 (免疫学講座)・教授	自己免疫疾患における SATB1 遺 伝子の T 細胞制御機構解析	SATB1 遺伝子に着目した T 細胞制 御機構の解析
川合 眞一	東邦大学医学部医学科 (内科学講座膠原病科)・ 教授	膠原病の炎症病態にかかわる新 規液性因子とその制御法の開発	自己免疫応答におけるアディポカイン、 ミッドカイン関与解析と治療薬創 製
武城 英明	東邦大学医学部医学科 (内科学講座消化器科)・ 教授	炎症性腸疾患における腸管粘膜 免疫機能解析とその制御法解明	疾患特異的蛋白および病態を反映 する新規マーカーの検出と治療法 創製
石河 晃	東邦大学医学部医学科 (皮膚科学講座)・教授	自己免疫性水疱症の病因解明と 制御技術の開発	自己反応性 B 細胞機能解析と制御 法の創製
(共同研究 機関等)			

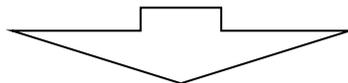
法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
自己免疫疾患における好中球機能解析と制御機構解析	東邦大学医学部 医学科(先端医科学研究センター)・教授	宮崎 修一	小児由来好中球機能解析と制御技術の開発

(変更の時期:平成 28 年 4 月 1 日)



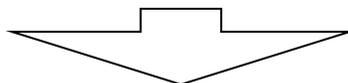
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
東邦大学医学部医学科(先端医科学研究センター)・教授	東邦大学医学部医学科(先端医科学研究センター)・教授	赤坂 喜清	自己免疫疾患の臓器線維化の制御技術の開発

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
膠原病の炎症病態にかかわる新規液性因子とその制御法の開発	東邦大学医学部医学科(内科学講座膠原病科)・教授	川合 真一	自己免疫応答におけるアディポカイン、ミッドカイン関与解析と治療薬創製

(変更の時期:平成 29 年 4 月 1 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
東邦大学医学部医学科(内科学講座膠原病科)・教授	東邦大学医学部医学科(内科学講座膠原病科)・教授	南木 敏宏	自己免疫疾患におけるケモカイン、アディポカインの関与の解明とその阻害による新規治療開発

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

11 研究進捗状況(※ 5枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

目的・意義: 免疫応答異常により生じる様々な疾患には環境要因の変容を含む多種多様な因子が関与しているが、Th 細胞をはじめ免疫担当細胞の過剰活性化が病態の基盤をなしている。しかし、いかなる物質が免疫担当細胞の過剰活性化を惹起し、いかなる経路を経て発症に至るのか、病因・病態の詳細についてはいまだ明らかでない点が多い。本研究プロジェクトでは全身性・臓器特異性免疫疾患について多角的な解析を行い、疾患特異的蛋白やTh細胞をはじめとする免疫担当細胞の過剰活性化を引き起こす因子を同定することを目指す。具体的には、1. 臨床研究班にて、アレルギー・リウマチ性疾患、皮膚水疱症、炎症性腸疾患、血管炎において疾患特異的に発現する蛋白の検出、解析を行う。2. 基礎研究班にて、リンパ球や好中球に対する同物質の免疫応答異常誘発を *in vivo*, *in vitro* 両面から解析する。

最終的に、①自己免疫疾患発症にかかわる T 細胞過剰活性化因子の同定
②疾患の病態を反映するバイオマーカーの同定
③病態を是正する新薬創製
④プロバイオティクスを含めた疾患予防法の確立、を目指す。

研究計画の概要: 平成 26 年度から平成 28 年度まで、臨床班では「自己免疫疾患患者検体から検出されるサイトカインをはじめとする種々のバイオマーカー」を探索し、疾患特異性について検討する。基礎研究班では「遺伝子発現を包括的に調節する SATB1 とアレルギー・自己免疫疾患患者由来好中球の機能解析」を行う。平成 29 年度、平成 30 年度は、臨床検討で得られた自己免疫疾患に関与する候補蛋白について、基礎的検討系を応用してその機能を確認し、この特定蛋白を基に新規治療法・効率的予防法の創製を目指す。

(2) 研究組織

本プロジェクトの 4 つの目標を達成するため、臨床検討を主とする「自己免疫疾患病態解析グループ」と、基礎的検討を加える「自己免疫疾患に関わる細胞機能解析グループ」とを結成した。基礎班では「免疫担当細胞の初期・成熟応答」を、臨床班では「自己免疫疾患患者検体中に存在する蛋白同定」を検討するため、以下の役割分担からなる研究組織を構築した。

1. 免疫疾患にかかわる細胞制御機構の解析・制御を行う基礎的検討班

- 1) SATB1 遺伝子の T 細胞制御機構解析 (近藤班、5 名)
- 2) アレルギー・自己免疫疾患小児の好中球機能解析・制御 (宮崎班、4 名)
- 3) 自己免疫性疾患における臓器線維化制御技術の開発 (赤坂班 4 名、(宮崎班に代わり平成 28 年度から参画))

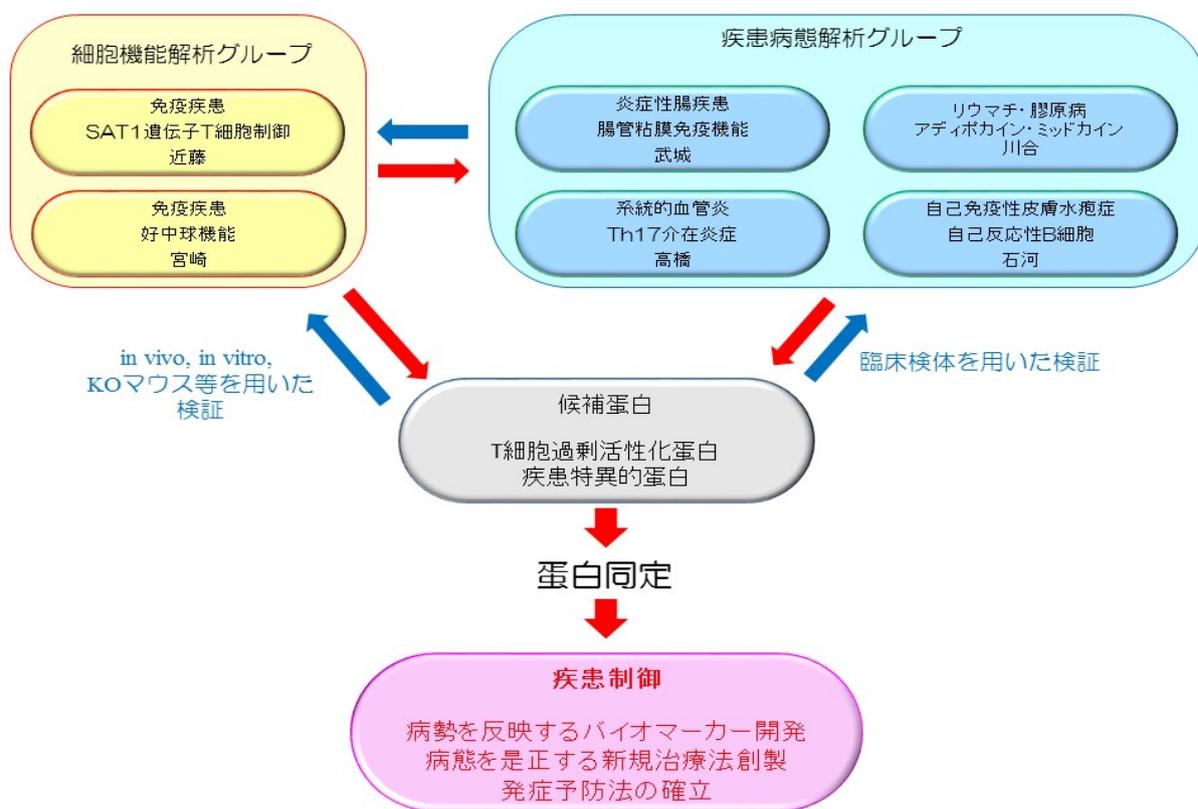
2. 疾患病態解析・制御へ向けた臨床研究班

- 4) 共生真菌由来血管炎発生における Th 細胞分化解析・制御 (高橋班、5 名)
- 5) バイオマーカーによる自己免疫疾患の細胞病態の解明 (武城班、4 名)
- 6) リウマチ膠原病におけるアディポカイン、ミッドカイン解析・制御 (川合班、7 名)
- 7) 自己免疫性水疱症における自己反応性 B 細胞機能解析・制御 (石河班、6 名)

本プロジェクトは、上記研究者に加え国際的な最先端研究を目指す若手研究者を積極的に登用し、大学院生をはじめ PD、RA10 名以上が研究に常時参加し、戦略性に長けた若手研究者育成のための研究拠点の確立を目指した。研究代表者は、病院病理学講座教授として、系統的血管炎、特にいまだに原因の明らかでない川崎病について人体、動物モデル両面の検索により病因・病態解析を行う一方、自己免疫疾患の先進的知見を収集し、研究成果を有機的に結合させ、自己免疫疾患を制御する研究拠点の形成に専心してきた。年 1 回プロジェクト報告会を公開で開催し、各グループの進捗状況の点検を行

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

うと共に、外部評価委員の評価を受け、今後の方針を是正することに努めてきた。さらに、基礎班と臨床班との間で定期的な意見交換の場を設けると共に、報告書の提出を求めその内容をグループ間で公開し進捗状況の把握と情報共有を諮ってきた。また、プロジェクト検討委員会(高橋 啓、高松研医学部長、赤坂喜清先端医科学研究センター教授、事務・会計担当の藤居英明)を開催し、討議事項を班責任者にメール配信し各班の研究計画や共同研究調整に努力している。研究班は平成 28 年度まではそれぞれの研究課題解析に励んできたが、平成 29 年度からそれぞれの研究成績を有機的に結合させ、目標達成に向けてチーム間連携を諮っていく。研究支援体制として研究基盤センターや実験動物センターを中隔とする研究施設や研究装置設備を常時稼働させ研究成果の着実な蓄積を諮ってきた。設定された共同研究機関はないが、これまでに UC San Diego 小児免疫学教室、国立成育医療研究センターなどと意見交換、討議を行い、研究の方向性の確認と多面的な知見収集に努力している。



(3) 研究施設・設備等

【研究施設】

研究基盤センター:450 m²、利用者数:100 人/週
 実験動物センター: 1,510 m²、利用者数:200 人/週
 総合研究部実験センター:614 m²、利用者数:200 人/週
 免疫学講座:272 m²、利用者数:28 人/週
 大橋・総合研究部:20m²、利用者数:30 人/週
 佐倉・総合研究部館:56m²、利用者数 30 人/週

【主な研究装置、設備】

実験動物飼育用特殊空調装置、利用時間 168 時間/週
 実験動物飼育用清浄空気調和装置、稼働時間 168 時間/週

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

MesoQuickPlex マルチイムノアッセイシステム、稼働時間 15 時間/週
 ImageQuant LAS 4010 システム、稼働時間 10 時間/週
 島津質量分析システム LCMS-8040、稼働時間 10 時間/週
 カールツァイス:共焦点レーザー स्क्यान顕微鏡 LSM700、稼働時間 10 時間/週
 凍結超薄切片作成システム EM-UC7+EMFC、稼働時間 10 時間/週

(4)進捗状況・研究成果等 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

<現在までの進捗状況及び達成度>

本研究プロジェクトの4つの目標:①自己免疫疾患発症にかかわるT細胞過剰活性化因子の同定、②疾患の病態を反映するバイオマーカーの同定、③新薬創製、④プロバイオティクスを含めた疾患予防法の確立の内、これまでの研究により主に目標①、②で、一部③について進捗をみた。

1. 免疫疾患にかかわる細胞制御機構の解析・制御を行う基礎的検討

*1) SATB1 遺伝子の T 細胞制御機構解析

SATB1 は胸腺における中心性免疫寛容に重要な分子であり、SATB1 遺伝子欠損により自己反応性 T 細胞が胸腺内で正常に排除されず末梢に移行することで自己免疫疾患病態を形成することが明らかになった。<達成度 70%>

2) アレルギー・自己免疫疾患および小児由来好中球機能解析・制御

小児のアレルギー誘発要因となる感染症について、好中球の TLR2 および TLR4 発現と血清サイトカイン濃度を検討し、小児期においても感染後早期に好中球は活性化のピークを迎え、さらに、病原体の種類によってサイトカイン応答が異なるなど、免疫応答のバランス調節が行われていることが確認された。<達成度 50%>

*3) 自己免疫疾患の臓器線維化の制御技術の開発

bFGF 添加により誘導される線維化抑制性 microRNA を探索し、見出された miR-146b-5p は PDGF の発現性を受容体レベルで抑制することで線維芽細胞による過剰な修復反応を抑制させる機構を明らかにした。<達成度 70%>

2. 疾患病態解析・制御へ向けた臨床研究

*4) 共生真菌由来血管炎発生における Th 細胞分化解析・制御

ヒトに常在する *Candida albicans* の細胞壁由来糖タンパクで誘発される川崎病類似マウス系統的血管炎モデルは TNF- α に加え IL-6、KC/GRO が血管炎と密接に関連しており、抗 TNF- α 製剤投与により血管炎発生は完全に抑制されることが示された。<達成度 60%>

*5) リウマチ・膠原病におけるアディポカイン、ミッドカイン解析・制御

細胞増殖・遊走、血管新生に関わる分子であるミッドカイン(MK)は、健常人に比し関節リウマチ(RA)患者で有意に高値で、疾患活動性や身体障害度、リウマトイド因子と相関する。MKはヒト滑膜組織で発現し、滑膜細胞の IL-6 や IL-8 の産生を誘導する。RAの病態形成に関与する因子として新規のバイオマーカーとなる可能性がある。<達成度 70%>

*6) バイオマーカーによる自己免疫疾患の細胞病態の解明

平滑筋細胞フェノタイプレギュレーター、可溶性受容体 LR11(sLR11)は川崎病の血管合併症で高値となる他、炎症性腸疾患、自己免疫性胆道疾患においても上昇し、自己免疫疾患細胞の病態をあらわすバイオマーカーになる可能性がある。<達成度 50%>

*7) 自己免疫性水疱症における自己反応性 B 細胞機能解析・制御

器官培養観察系において、単独で水疱形成を起こさない非病原性抗 Dsg1 モノクローナル抗体は、単独で水疱形成を引き起こす病原性 Dsg1 モノクローナル抗体と混合することにより表皮細胞内の Dsg1 の凝集を p38MAPK 依存性に誘導し細胞接着阻害活性を相乗的に増加させることが見いだされた。<達成度 60%>

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

<特に優れた研究成果>

- SATB1 遺伝子の T 細胞制御機構解析:** SATB1cKO マウスでは、末梢性ではなく中心性免疫寛容の破綻により、自己免疫疾患症状を呈することが初めて明らかにされた。
 - アレルギー・自己免疫疾患小児由来好中球機能解析・制御:** 小児においてもアレルギーや感染症による好中球活性化や免疫応答は成人のそれと同様に機能することが示された。
 - 自己免疫疾患の臓器線維化の制御技術の開発:** 臓器障害の際に生じる線維化に対し、bFGF により誘導される過剰線維化抑制機構の詳細を初めて明らかにした。
- ②疾患病態解析・制御へ向けた臨床研究
- 共生真菌由来血管炎発生における Th 細胞分化解析・制御:** *Candida* 菌体成分由来血管炎誘発モデルでは川崎病同様、単球/マクロファージの活性化と TNF- α 高値が血管炎と深く関連し、抗 TNF- α 抗体投与で血管炎は抑制される。本分子は PAMPs として作用し、パターン認識受容体を介した自然免疫応答が血管炎発生にかかわっている可能性を示した。
 - リウマチ・膠原病におけるアディポカイン、ミッドカイン解析・制御:** 膠原病の中でも関節リウマチの病態にかかわる分子(ミッドカイン)を新たなバイオマーカー候補として提唱した。
 - バイオマーカーによる自己免疫疾患の細胞病態の解明:** 血管細胞形質制御因子である sLR11 は川崎病や自己免疫疾患、炎症性腸疾患の病勢・病態をあらわすバイオマーカーとなる可能性を示した。
 - 自己免疫性水疱症における自己反応性 B 細胞機能解析・制御:** 非病原性抗 Dsg1 モノクローナル抗体は、病原性抗体と混合、協同することで、細胞接着阻害活性を相乗的に増加させる水疱を形成する機序を初めて報告した。

<問題点とその克服方法>

- SATB1 遺伝子の T 細胞制御機構解析:** SATB1cKO マウスの自己免疫疾患病態形成における末梢性免疫寛容の関与をより明らかにするため細胞移入や Treg 細胞に注目した解析を行う必要がある。
- アレルギー・自己免疫疾患および小児由来好中球機能解析・制御:** アレルギー・自己免疫疾患患者における TLR2,4 の蛋白発現、mRNA 発現を感染症におけるそれと比較し差異検討する必要がある。
- 自己免疫疾患の臓器線維化の制御技術の開発:** 線維化抑制性 microRNA の発現を誘導する bFGF 投与の至適条件、bFGF 以外の線維化抑制誘導因子の検討を行う。
- 共生真菌由来血管炎発生における Th 細胞分化解析・制御:** 血管炎発生における自然免疫の関与について dectin をはじめとするパターン認識受容体の解析を進めると共に、*Candida* 感染症の際に生体防御機構として重要な Th17 の関与を検討する。
- リウマチ・膠原病におけるアディポカイン、ミッドカイン(MK)解析・制御:** MK 産生の制御機構を検討するとともに、膠原病の治療として広く用いられているステロイド投与が MK 発現に与える影響を検討し、治療効果判定のバイオマーカーとなりうるかを必要がある。
- バイオマーカーによる自己免疫疾患の細胞病態の解明:** より多くの自己免疫疾患患者に対して sLR11 の病勢、病態を反映するバイオマーカーとしての有用性を検討する必要がある。
- 自己免疫性水疱症における自己反応性 B 細胞機能解析・制御:** 非病原性抗体はなぜ病原性抗体との共存下で水疱形成相乗作用を示すのか、その機構について検討する。

<研究成果の副次的効果(実用化や特許の申請など研究成果の活用の見直しを含む。)>

- SATB1 遺伝子異常は自然発生的に諸臓器に慢性炎症を引き起こすが、臓器病変の詳細を明らかにすることで、新たな自己免疫疾患モデルとして確立される可能性がある。
- 線維化抑制に関与する特異的な細胞間制御分子 miRNA の同定は、核酸創薬による新規

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

治療薬開発による特許出願が可能となり得る。

3) 膠原病、特に RA の病勢を反映するバイオマーカーとしてのミッドカイン、炎症病態を反映する sLR11 の測定系樹立により特許出願し得る。

<今後の研究方針>

本研究プロジェクト4目標のうち、これまでに①免疫疾患発症にかかわるT細胞過剰活性化因子の同定、②疾患の病態を反映するバイオマーカーの同定について成果を得た。基礎・臨床班で得たこれらの知見はいずれも自己免疫疾患の病因、病態を考えるうえで示唆に富むものであり、抗体療法、シグナル伝達阻害薬などの新規治療法開発を考えるうえで貴重な基礎データとなる。今後の研究方針については以下の通りとする。

目標②『疾患の病態を反映するバイオマーカーの確立』臨床班が示したバイオマーカー候補蛋白である MK, sLR11 に対して、基礎班での *in vitro*, *in vivo* の検討。他の研究班で対象とする自己免疫疾患での有用性についてチーム間連携を図り評価を行う。また、測定系の評価についても検証を行う。

目標③『新薬創製』SATB1 分子発現制御による自己免疫疾患病態の是正、線維化抑制に働く mRNA 同定による核酸創薬、MK, LR11 に対する分子標的治療、p38MAPK シグナル伝達阻害による水疱形成阻害、自然免疫応答受容体阻害による血管炎発症治療など新規治療法の開発を目指す。

目標④『疾患予防』自己免疫疾患発症における微生物叢の関与に注目し、炎症性腸疾患や血管炎における微生物叢変容と炎症マーカーの誘導・発現について検討し、疾患予防の手掛かりとする。

<今後期待される研究成果>

1) 免疫寛容の破綻により生じる自己免疫疾患の制御分子(SATB1)の異常を細胞移入などにより是正することで、持続する慢性炎症反応による組織傷害の改善が可能となる。

2) 組織傷害の結果引き起こされる線維化機構を解明することで、自己免疫疾患による肺や肝臓などの過剰な線維化の制御が可能になる。

3) 自己免疫疾患による炎症の際に発現し、病因・病態と関連する分子を同定し、その測定系を開発することで、診断補助、疾患活動性を把握することが可能となる。さらに、病因、病態に基づいた新規治療創成が期待出来る。

<自己評価・外部(第三者)評価の実施結果及び対応状況>

年度末開催事業報告会で外部評価委員 [斧 康雄教授(帝京大学医学部微生物学)、本橋新一郎教授(千葉大学大学院医学研究院免疫細胞医学)]による評価を受けた。プロジェクト運営委員会高橋 啓、高松研医学部長、赤坂喜清先端医科学研究センター教授、事務・会計担当の藤居英明)は①評価者の評価、②学会発表並びに論文投稿状況、③研究の進捗状況・発展性を総合的に評価し費用対効果を査定し、各研究班の維持・研究資金配分等を決定している。

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- (1) 自己免疫性疾患 (2) 免疫寛容 (3) バイオマーカー
 (4) 炎症性サイトカイン (5) 自己抗体 (6) 系統的血管炎
 (7) 水疱性皮膚疾患 (8) 膠原病

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

	研究テーマ	研究者名	発表論文名・著者名	発表年月
1	SATB1 遺伝子の T 細胞制御機構解析	近藤 元就	Guo, X., Tanaka, Y., and Kondo, M. Thymic precursors of TCR $\alpha\beta$ +CD8 $\alpha\alpha$ + intraepithelial lymphocytes are negative for CD103. Immunol. Lett. 163, 40-48, 2015.	2015 年
2			*1 Hao, B., Nalk, A.K., Watanabe, A., Tanaka, H., Chen, L., Richards, H.W., Kondo, M., Taniuchi, I., Kohwi, Y., Kohwi-Shigematsu, T., and Krangel, M.S. <u>An anti-silencer- and SATB1-dependent chromatin hub regulates Rag1 and Rag2 gene expression during thymocyte development.</u> J. Exp. Med. 212, 809-24, 2015.	2015 年
3			*1 Kondo, M., Tanaka, Y., Kuwabara, T., Naito, T., Kohwi-Shigematsu, T., and Watanabe, <u>SATB1 plays a critical role in establishment of immune tolerance.</u> A. J. Immunol. 196, 563-572, 2016.	2015 年
4			*1 T. Kuwabara, H. Kasai, M. Kondo. <u>Acetylation modulates IL-2 receptor signaling in T cells.</u> J. Immunol. 197: 4334-4343, 2016.	2016 年
5			*1 田中ゆり子、近藤元就 <u>T細胞分化に必須な分子 SATB1</u> 臨床免疫・アレルギー科 66:164-168, 2016.	2016 年
6			*1 近藤元就 <u>免疫寛容に必須な核蛋白: SATB1</u> 医学のあゆみ 259:261-262, 2016.	2016 年
7			Kuwabara T., Ishikawa F., Kondo M., Kakiuchi T., <u>The role of IL-17 and related cytokines in inflammatory autoimmune diseases.</u> Hindawi Mediators of Inflammation, 3908061, 2017.	2016 年
8	自己免疫疾患小児由来好中球機能解析・制御	宮崎 修一	Hirota N, Ito T, Miyazaki S, Ebina M, Homma S. <u>Gene expression profiling of lungs myofibroblasts reveals the anti-fibrotic effects of cyclosporine.</u> Tohoku J Exp Med 233:283-93, 2014	2014 年
9			Mitsui K, Yusa T, Miyazaki S, Ohara A, Saji T: <u>Increased TLR2 and TLR4 expression in peripheral neutrophils isolated from Kawasaki disease.</u> Pediat aller immunol pulmonol 27: 24-9, 2014	2014 年
10			Miyazaki Y, Yusa T, Matsuo S, Terauchi Y, Miyazaki S. <u>Zyxin modulates the transmigration of Haemophilus influenza to the</u>	2014 年

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

			central nervous system. Virulence 5:665-72, 2014	
11	自己免疫疾患の臓器線維化の制御技術の開発	赤坂喜清	安東賢太郎, 中村裕二, 星合清隆, 岸江拓也, 柏木克彦, 曹新, 小原浩, 中瀬古(泉)寛子, 高原章, 赤坂喜清, 杉山篤. 正常犬と正常ブタ間でのジビリダモール負荷後の心電図変化の差異—側副血行路が冠盗流 (coronary steal)の原因か? 心電図. 2015, 35: 79-80.	2015年
12			加藤 文彦, 永瀬 剛司, 山本 聖一郎, 赤坂喜清, 中川 基人. 茎捻転をきたした胃 GIST の1例. 日本臨床外科学会雑誌. 2015, 77(2); 333-339.	2015年
13			Hamanoue M, Morioka K, Ohsawa I, Ohsawa K, Kobayashi M, Tsuburaya K, Akasaka Y, Mikami T, Ogata T, Takamatsu K. Cell-permeable p38 MAP kinase promotes migration of adult neural stem/progenitor cells. Sci Rep. 2016, 211(7), 10.	2016年
14			*3 Nakamichi M, Akishima- Fukasawa Y, Fujisawa C, Mikami T, Onishi K, Akasaka Y: <u>Basic Fibroblast Growth Factor Induces Angiogenic Properties of Fibrocytes to Stimulate Vascular Formation during Wound Healing.</u> American Journal of Pathology 186 (12) :3203 -3216 , 2016	2016年
15			Matsukura S, Nakamura Y, Ohara H, Cao X, Wada T, Izumi-Nakaseko H, Ando K, Akasaka Y, Sugiyama A: Feasible induction of coronary artery vasospasm occurred during cardiac catheterization in a microminipig. The Journal of Veterinary Medical Science 78 (5) :873 -876 , 2016	2016年
16			*3, *5 Shindo E, Nanki T, Kusunoki N, Shikano K, Kawazoe M, Sato H, Kaneko K, Muraoka S, Kaburaki M, Akasaka Y, Shimada H, Hasunuma T, Kawai S: <u>The growth factor midkine may play a pathophysiological role in rheumatoid arthritis.</u> Modern rheumatology / the Japan Rheumatism Association 27 (1) :54 -59 , 2017	2017年
17	共生真菌由来血管炎発生における Th 細胞分化解析・制御	高橋 啓	三登久美子、富永健司、大牟田繁文、鈴木武志、佐藤浩一郎、伊藤紗代、北川智之、加藤充、竹中由希夫、石井智貴、長尾さやか、榎本俊行、芥田芳久、横内幸、高橋啓、前谷谷. EUS-FNAにより術前診断し得た直腸 GIST の1例. Progress of Digestive Endoscopy. 2014, 85(1):110-111.	2014年
18			高橋啓. 新しい血管炎分類 Chapel Hill Consensus Conference 2012. Visual Dermatology. 2014, 13(7):758-761.	2014年
19			高橋啓. 血管炎の新たな分類と名称. モダンフィジシャン. 2014, 34(9):997-1001.	2014年
20			高橋啓、横内幸、大原関利章、榎本泰典. 成	2014年

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

			人期における川崎病後遺症の病理学的特徴. 血管医学. 2014, 15(4):94-99.	
21			*4 大原関利章、横内幸、榎本泰典、勝碇譲児、山田仁美、高橋啓. <u>川崎病動物モデルをめぐる話題</u> . 小児内科. 2014, 46(6):717-721.	2014年
22			松清 大, 渡邊 学, 浅井浩司, 齋藤智明, 児玉 肇, 長尾二郎, 斉田芳久, 中村陽一, 榎本俊行, 草地信也, 大牟田繁文, 高橋 啓. 抗凝固療法中の脳梗塞患者に発症した急性出血性胆嚢炎の1例. 胆道. 2014, 25(5):808-814.	2014年
23			横内幸、大原関利章、勝碇譲児、榎本泰典、高橋啓. 川崎病冠動脈病変の病理. 日本臨牀. 2014, 72(9):1518-1521.	2014年
24			Sato K, Saji T, Kaneko T, Takahashi K, Sugi K. Unexpected pulmonary hypertensive crisis after surgery for ocular malignant melanoma. Life sciences. 2014, 118(2):420-423.	2014年
25			Nemoto Y, Kaneko M, Fujisaki J, Saida Y, Takahashi K, Maetani I. A Case of an Ileal Inflammatory Fibroid Polyp Causing Intestinal Intussusception. Journal of Gastroenterology and Hepatology Research. 2015 Jan, 4(1):1451-1454.	2015年1月
26			*6 Shimizu C, Sood A, Lau HD, Oharaseki T, Takahashi K, Krous HF, Campman S5, Burns JC. <u>Cardiovascular pathology in 2 young adults with sudden, unexpected death due to coronary aneurysms from Kawasaki disease in childhood</u> . Cardiovascular Pathology. 2015 Feb, 24(5): 310-6.	2015年2月
27			日原大輔, 佐藤浩一郎, 富永健司, 鈴木武志, 根本夕夏子, 伊藤紗代, 加藤充, 北川智之, 平山圭穂, 吉田有輝, 三登久美子, 高木厚子, 斉田芳久, 高橋啓, 前谷容. 肛門管尖圭コンジローマに対し内視鏡的粘膜下層剥離術を施行した1例. Progress of Digestive Endoscopy. 2015, 87(1):190-191.	2015年
28			武谷千晶, 長崎澄人, 高橋怜奈, 山本泰弘, 小宮山慎一, 高橋 啓, 久布白兼行. 子宮体部原発小細胞癌(神経内分泌癌)の1例. 2015, 64(3):370-375.	2015年
29			池田彩子, 新山史朗, 中橋佳大, 高橋美咲, 福田英嗣, 高橋啓, 向井秀樹. 男性の腋窩に生じた巨大副乳. 皮膚科の臨床. 2016 Mar, 58:476-477.	2016年3月
30			中橋佳大, 福田英嗣, 高橋啓, 向井秀樹. 四肢・体幹に生じた多発性蔓状神経鞘腫の1例. 皮膚科の臨床. 2016 Feb, 58(2):275-278.	2016年2月
31			高橋啓. 新しい血管炎の分類. 皮膚病診療. 2015, 37(7):628-633.	2015年
32			Saito N, Aoki K, Hirai N, Fujita S, Iwama J, Hiramoto Y, Ishii M, Sato K, Nakayama H,	2015年

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

			Harashina J, Hayashi M, Izukura H, Kimura H, Ito K, Sakurai T, Yokouchi Y, Oharazeki T, Takahashi K, Iwabuchi S. Effect of Notch expression in glioma stem cells on therapeutic response to chemo-radiotherapy in recurrent glioblastoma. Brain tumor pathology. 2015, 32(3):176-183.	
33			Takahashi K. Is the Prevalence of Patent Foramen Ovale in Japanese Truly Low? Circulation Journal. 2015, 79(9):1904-1905.	2015年
34			Numano F, Shimizu C, Jimenez-Fernandez S, Vejar M, Oharaseki T, Takahashi K, Salgado A, Tremoulet AH, Gordon JB, Burns JC, Daniels LB. Galectin-3 is a marker of myocardial and vascular fibrosis in Kawasaki disease patients with giant aneurysms. International journal of cardiology. 2015, 201:429-437.	2015年
35			*4 Lee AM, Shimizu C, Oharaseki T, Takahashi K, Daniels LB, Kahn A, Adamson R, Dembitsky W, Gordon JB, Burns JC. <u>Role of TGF-β Signaling in Remodeling of Noncoronary Artery Aneurysms in Kawasaki Disease.</u> Pediatric and developmental pathology. 2015, 18(4):310-317.	2015年
36			Tokue M, Hara , Sahara N, Yamazaki K, Yamashita H, Takahashi K, Ozaki S, Sugi K, Nakamura M. A Case of Severe Unicuspid Aortic Valve Stenosis: Valve Repair With Tricuspidization in an Adult. World J Pediatr Congenit Heart Surg. 2015, 6(4):658-662.	2015年
37			宮内倫沙, 富永健司, 三枝善伯, 森麻紀子, 吉田有輝, 牧野敏之, 高橋厚子, 日原大輔, 長尾さやか, 榎本俊行, 斉田芳久, 横内幸, 高橋啓, 前谷容. 貧血が契機となり発見された空腸海綿状血管腫の1例. Progress of Digestive Endoscopy. 2016, 88(1):128-129.	2016年
38	炎症性腸疾患における腸管粘膜免疫機能解析・制御 (武城班)	武城 英明	Kawaguchi T, Ohwada C, Takeuchi M, Shimizu N, Sakaida E, Takeda Y, Sakai S, Tsukamoto S, Yamazaki A, Sugita Y, Higashi M, Fujikawa K, Matsue K, Yokote K, Tamaru JI, Bujo H, Nakaseko C: Potential utility of serum soluble LR11 as a diagnostic biomarker for intravascular large B-cell lymphoma. Leuk Lymphoma, [Epub ahead of print] 2014	2014年
39			Shimizu N, Nakaseko C, Jiang M, Nishii K, Yokote K, Iseki T, Higashi M, Tamaru J, Schneider WJ, Bujo H: G-CSF induces the release of the soluble form of LR11, a regulator of myeloid cell mobilization in bone marrow. Ann Hematol 93(7):1111-22, 2014.	2014年
40			Tsukamoto S, Takeuchi M, Kawaguchi T, Togasaki E, Yamazaki A, Sugita Y, Muto T, Sakai S, Takeda Y, Ohwada C, Sakaida E, Shimizu N, Nishii K, Jiang M, Yokote K, Bujo H, Nakaseko C. Tetraspanin CD9 modulates ADAM17-mediated LR11 shedding in leukocytes. Exp Mol Med 46:e89, 2014.	2014年

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

41			Kuroda M, Holleboom AG, Stroes ES, Asada S, Aoyagi Y, Kamata K, Yamashita S, Ishibashi S, Saito Y, Bujo H: Lipoprotein subfractions highly associated with renal damage in familial LCAT deficiency. <i>Arterioscler Thromb Vasc Biol</i> 34(8): 1756-62, 2014.	2014 年
42			Shiba T, Takahashi M, Sato Y, Onoda Y, Hori Y, Sugiyama T, Bujo H, Maeno T: Relationship between Severity of Obstructive Sleep Apnea Syndrome and Retinal Nerve Fiber Layer Thickness. <i>Am J Ophthalmol</i> 157(6):1202-8, 2014.	2014 年
43			*6 Nagayama D, Ishihara N, Bujo H, Shirai K, Tatsuno I: <u>Effects of serotonin on expression of the LDL receptor family member LR11 and 7-ketocholesterol-induced apoptosis in human vascular smooth muscle cells.</u> <i>Biochem Biophys Res Commun</i> , 446(4):906-10,2014.	2014 年
44			*6 Nohara A, Kobayashi J, Kawashiri MA, Tada H, Inazu A, Jiang M, Mabuchi H, Bujo H: <u>Clinical significance of measuring soluble LR11, a circulating marker of atherosclerosis and HbA1c in familial hypercholesterolemia.</u> <i>Clin Biochem</i> 47(13-14):1326-8, 2014.	2014 年
45			Yoshida I, Shiba T, Taniguchi H, Takahashi M, Murano T, Hiruta N, Hori Y, Bujo H, Maeno T: Evaluation of plasma vascular endothelial growth factor levels after intravitreal injection of ranibizumab and aflibercept for exudative age-related macular degeneration. <i>Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol</i> 252(9):1483-9, 2014.	2014 年
46			*6 Ogita M, Miyauchi K, Jiang M, Kasai T, Tsuboi S, Naito R, Konishi H, Dohi T, Takayuki Y, Okazaki S, Shimada K, Bujo H, Daida H: <u>Circulating soluble LR11, a novel marker of smooth muscle cell proliferation, is enhanced after coronary stenting in response to vascular injury.</u> <i>Atherosclerosis</i> 237(1):374-378, 2014.	2014 年
47			Rodriguez SN, Jiang M, Bujo H, Allen PM: Self-pMHCII complexes are variably expressed in the thymus and periphery independent of mRNA, expression but dependent on the recent immune status, <i>Mol Immunol</i> 63(5):428-436, 2014.	2014 年
48			Ohwada C, Yamazaki A, Kawaguchi T, Sugita Y, Takeuchi M, Shimizu N, Sakaida E, Takeda Y, Tsukamoto S, Muto T, Jiang M, Higashi M, Yokote K, Tamaru JI, Bujo H, Nakaseko C: Serum soluble LR11, a novel tumor derived biomarker associated with the outcome of patients with diffuse large B-cell lymphoma. <i>Leukemia & lymphoma</i> 11:1-4, 2014.	2014 年
49			橋本りゅう也, 杉山哲也, 武城英明, 柴友明, 河井貴行, 村野武義, 堀裕一, 前野貴俊: 網	2014 年

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

			膜硝子体疾患における血清・硝子体中抗酸化力の比較検討. 日本眼科学会雑誌 118(8):633-639, 2014	
50			武城英明:「脂質異常症」の治療薬の副作用が心配です. NHK テキストきょうの健康 4:127,2014	2014年
51			Adachi N, Kubota Y, Kosaka K, Akita S, Sasahara Y, Kira T, Kuroda M, Mitsukawa N, Bujo H, Satoh K. Low-dose radiation pretreatment improves survival of human ceiling culture-derived proliferative adipocytes (ccdPAs) under hypoxia via HIF-1 alpha and MMP-2 induction. Biochem Biophys Res Commun. 463(4): 1176-83 2015.8.	2015年8月
52			Kotani K, Tashiro J, Yamazaki K, Nakamura Y, Miyazaki A, Bujo H, Saito Y, Kanno T, Maekawa M. Investigation of MDA-LDL (malondialdehyde-modified low-density lipoprotein) as a prognostic marker for coronary artery disease in patients with type 2 diabetes mellitus. Clin Chim Acta.450-145-50 2015.10	2015年10月
53			Whittle AJ, Jiang M, Peirce V, Relat J, Virtue S, Ebinuma H, Fukamachi I, Yamaguchi T, Takahashi M, Murano T, Tatsuno I, Takeuchi M, Nakaseko C, Jin W, Jin Z, Campbell M, Schneider WJ, Vidal-Puig A, Bujo H : Soluble LR11/SorLA represses thermogenesis in adipose tissue and correlates with BMI in humans. Nature Communications.20(6): 8951 2015.11	2015年11月
54			Vongpromek R, Bujo H, Hoekstra M, Schneider WJ, van der Zee L, Schinkel AF, Korporaal SJ, Dik WA, Ebinuma H, Jiang M, Verhoeven AJ, Sijbrands EJ, Mulder MT : LR11/SorLA links triglyceride-rich lipoproteins to risk of developing cardiovascular disease in FH patients. Atherosclerosis. 243(2): 429-37 2015.12	2015年12月
55			Murano T, Yamaguchi T, Tatsuno I, Suzuki M, Noike H, Takanami T, Yoshida T, Suzuki M, Hashimoto R, Maeno T, Terai K, Tokuyama W, Hiruta N, Schneider WJ, Bujo H : Subfraction analysis of circulating lipoproteins in a patient with Tangier disease due to a novel ABCA1 mutation. Clinica chimica acta, 15(452): 167-72 2016.1	2016年1月
56			*6 Ogita M, Miyauchi K, Kasai T, Tsuboi S, Wada H, Naito R, Konishi H, Dohi T, Tamura H, Okazaki S, Yanagisawa N, Shimada K, Suwa S, Jiang M, Bujo H, Daida H : <u>Prognostic impact of circulating soluble LR11 on long-term clinical outcomes in patients with coronary artery disease.</u> Atherosclerosis, 244:216-21 2016.1	2016年1月

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

57			*6 Watanabe K, Suzuki H, Jiang M, Haniu H, Numano F, Hoshina S, Saitoh A, Uchiyama M, Bujo H : <u>Soluble LR11 is a novel biomarker for vascular lesions late after Kawasaki disease.</u> <i>Atherosclerosis.</i> 29(46): 94-7 2016.3	2016年3月
58			*6 Terai K, Jiang M, Tokuyama W, Murano T, Takada N, Fujimura K, Ebinuma H, Kishimoto T, Hiruta N, Schneider WJ, Bujo H : <u>Levels of soluble LR11/SorLA are highly increased in the bile of patients with biliary tract and pancreatic cancers.</u> <i>Clin Chim Acta</i> 457:130-6, 2016	2016年
59	リウマチ膠原病におけるアディポカイン、ミッドカイン解析・制御	川合 真一	Yamamoto T, Hasunuma T, Takagi K, Akimoto K, Shikano K, Kaburaki M, Muraoka S, Kitahara K, Tanaka N, Kaneko K, Kusunoki Y, Endo H, Kawai S. A feasibility study assessing tolerability of daily versus twice weekly trimethoprim-sulfamethoxazole regimen for prophylaxis against <i>Pneumocystis pneumonia</i> in patients with systemic autoimmune diseases on glucocorticoid therapy. <i>Jpn J Clin Pharmacol Ther.</i> 2014 Jun; 45(3):89-92.	2014年6月
60			Takeuchi T, Miyasaka N, Kawai S, Sugiyama N, Yuasa H, Yamashita N, Sugiyama N, Wagerle LC, Vlahos B, Wajdula J. Pharmacokinetics, efficacy and safety profiles of etanercept monotherapy in Japanese patients with rheumatoid arthritis: review of seven clinical trials. <i>Mod Rheumatol.</i> 2015 Mar;25(2):173-186.	2015年3月
61			Ogata A, Amano K, Dobashi H, Inoo M, Ishii T, Kasama T, Kawai S, Kawakami A, Koike T, Miyahara H, Miyamoto T, Munakata Y, Murasawa A, Nishimoto N, Ogawa N, Ojima T, Sano H, Shi K, Shono E, Suematsu E, Takahashi H, Tanaka Y, Tsukamoto H, Nomura A; MUSASHI Study Investigators. Longterm safety and efficacy of subcutaneous tocilizumab monotherapy: results from the 2-year open-label extension of the MUSASHI study. <i>J Rheumatol.</i> 2015 May;42(5): 799-809.	2015年5月
62			Shikano K, Kaneko K, Kawazoe M, Kaburaki M, Hasunuma T, Kawai S. Efficacy of vitamin K2 for glucocorticoid-induced osteoporosis in patients with systemic autoimmune diseases. <i>Intern Med.</i>	2015年
63			Hasunuma T, Tohkin M, Kaniwa N, Jang JJ, Cui Y, Kaneko M, Saito Y, Takeuchi M, Watanabe H, Yamazoe Y, Uyama Y, Kawai S. Absence of ethnic differences in the pharmacokinetics of moxifloxacin, simvastatin, and meloxicam among three east Asian populations and Caucasians. <i>Br J Clin Pharmacol.</i> (in press) [Epub 2016 Jan 15]	2016年1月

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

64			*5 Shindo E, Nanki T, Kusunoki N, Shikano K, Kawazoe M, Sato H, Kaneko K, Muraoka S, Kaburaki M, Akasaka Y, Shimada H, Hasunuma T, Kawai S. <u>The growth factor midkine may play a pathophysiological role in rheumatoid arthritis.</u> Mod Rheumatol.	2016年
65			川合眞一: ステロイド処方のコツー導入と離脱ー. Bone Joint Nerve 6 (2) :309 -315 , 2016	2016年
66			川合眞一: 関節リウマチに対する早期治療介入の効果. 副腎皮質ステロイド. Rheumatology Clinical Research 4 (1) :28 -34 , 2015	2015年
67			山田壯一, 川合眞一: リウマチ性疾患に対する中〜高用量ステロイド使用ガイドライン. Rheumatology Clinical Research 4 (3) :197 -200 , 2015	2015年
68			南木敏宏, 川合眞一: 分類不能関節炎・早期関節リウマチの治療方針を決定する上での留意点. リウマチ科 54 (5) :492 -496 , 2015	2015年
69			楠 夏子, 川合眞一: NSAIDs の作用機序. リウマチ科 55 (1) :1 -6 , 2016	2016年
70			川合眞一: 特集〈Clinical Science〉慢性疼痛の制御. 序. 炎症と免疫 24 (2) :32 , 2016	2016年
71			村岡 成, 川合眞一: アセトアミノフェンの適応と限界. 炎症と免疫 24 (2) :37 -42 , 2016	2016年
72			川合眞一: 膠原病治療におけるステロイドの使い方. 日本内科学会誌 104 (9) :1937 -1943 , 2015	2015年
73			佐藤洋志, 川合眞一: 副腎皮質ステロイドの位置づけと使い方. 関節リウマチ. 薬局 66 (5) :1729 -1733 , 2015	2015年
74			Nanki T, Imai T, Kawai S. Fractalkine/CX3CL1 in rheumatoid arthritis. Mod Rheumatol. (in press) [Epub 2016 Aug 2]	2016年
75			Tanaka N, Masuoka S, Kusunoki N, Nanki T, Kawai S. Serum resistin level and progression of atherosclerosis during glucocorticoid therapy for systemic autoimmune diseases. Metabolites. 2016 Sep 16; 6(3). pii: E28	2016年9月
76			Yamamoto T, Shikano K, Nanki T, Kawai S. Polyglutamate synthase is a major determinant of intracellular methotrexate polyglutamates in patients with rheumatoid arthritis. Sci Rep. 2016 Oct 18; 6:35615.	2016年10月
77			Fujio N, Masuoka S, Shikano K, Kusunoki N, Nanki T, Kawai S. Apparent hypothalamic-pituitary-adrenal axis suppression via reduction of interleukin-6 by glucocorticoid therapy in systemic autoimmune diseases. PLoS ONE. 2016 Dec 8; 11(12): e0167854.	2016年12月

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

78			Miyabe C, Miyabe Y, Komiya T, Shioya H, Miura NN, Takahashi K, Ohno N, Tsuboi R, Luster AD, Kawai S, Miyasaka N, Nanki T. A sphingosine 1-phosphate receptor agonist ameliorates animal model of vasculitis. <i>Inflamm. Res.</i> (in press)	2016年12月
79	自己免疫性水疱症における自己反応性B細胞機能解析・制御 (石河班)	石河 晃	*7 Yoshida K, Takada Y, Hagihara S, Masunaga T, Ishiko A: <u>Japanese case of Herlitz junctional epidermolysis bullosa that initially showed a few blisters on the limited area.</u> <i>J Dermatol.</i> 41(4):351-353, 2014 .4	2014年4月
80			*7 Schulze FS, Beckmann T, Nimmerjahn F, Ishiko A, Collin M, Köhl J, Goletz S, Zillikens D, Ludwig R, Schmidt E.: <u>Fcγ Receptors III and IV Mediate Tissue Destruction in a Novel Adult Mouse Model of Bullous Pemphigoid.</u> <i>Am J Pathol</i> , 184(8):2185-2196,2014,8	2014年8月
81			*7 Masunaga H, Niizeki H, Yasuda F, Yoshida K, Amagai M, Ishiko A: <u>Splicing abnormality of integrin β4 gene (ITGB4) due to nucleotide substitutions far from splice site underlies pyloric atresia-junctional epidermolysis bullosa syndrome.</u> <i>Journal of Dermatological Science.</i> 78(1):61-66,2015,4.	2015年4月
82			陳怡如, 関根万里, 中尾由絵, 古屋紳子, 石河晃: バルサルタンによる薬剤誘発性水疱症の2例. <i>臨床皮膚科.</i> 69(7):479-483, 2015, 6.	2015年6月
83			*7 Iwata H, Witte M, Samavedam UK, Gupta Y, Shimizu A, Ishiko A, Schröder T, Seeger K, Dahlke M, Rades D, Zillikens D, Ludwig RJ. : <u>Radiosensitive Hematopoietic Cells Determine the Extent of Skin Inflammation in Experimental Epidermolysis Bullosa Acquisita.</u> <i>J Immunol.</i> 195(5):1945-1954, 2015, 9.	2015年9月
84			Masunaga T, Saito M, Sasaki T, Kubo A, Amagai M, Ishiko A: Letter to the Editor : Japanese recurrent mutation c.6216 + 5G > T in COL7A1 leads to a mild phenotype of dystrophic epidermolysis bullosa. <i>Journal of Dermatological Science</i> 80:212-225, 2015, 10.	2015年10月
85			石河晃: 水疱性類天疱瘡 VS 表皮水疱症 VS 糖尿病性水疱 VS 褥瘡 VS 虫刺症 VS 熱傷. <i>VisualDermatology.</i> 15(7): 710-713, 2016. 7	2016年7月
86			田中博子, 吉田憲司, 根岸亜津佐, 石井健, 江藤宏光, 佐々木貴史, 久保亮治, 石河晃: 家系内孤発例であった Dowling-Meara 型単純型表皮水疱症. <i>皮膚病診療</i> 38(8):797-800, 2016.8	2016年8月
87			伊藤 崇, 石井 健, 江野澤佳代, 陳 怡如, 大橋則夫, 石河 晃: 経過中に疱疹状天疱瘡の皮疹をみた落葉状天疱瘡. <i>皮膚病診療</i> : 38(11):1097-1100, 2016.11	2016年11月
88			Kumagai Y., Umegaki-Arao N., Sasaki T., Nakamura Y., Takahashi H., Ashida A., Tsunemi Y., Kawashima, A. Shimizu, A.	2016年11月

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

			Ishiko , Nakamura K., Tsuchihashi H., Amagai M., Kubo A.: Distinct phenotype of epidermolysis bullosa simplex with infantile migratory circinate erythema due to frameshift mutations in the V2 domain of KRT5. Journal of the European Academy of Dermatology and Venereology. Version of Record online: 2 NOV 2016	
89			石河 晃:口唇に生じる疾患の診断と治療 口唇に生じる天疱瘡. MB Derma,251 : 43-47,2016.12	2016年12月
90			*7 Masunaga T, Ogawa J, Akiyama M, Nishikawa T, Shimizu H, Ishiko A: <u>Compound heterozygosity for novel splice site mutations of ITGA6 in lethal junctional epidermolysis bullosa with pyloric atresia.</u> J Dermatol 44:160-166.2017.2	2017年2月
91			*7 Yoshida K, Ishii K, Shimizu A, Mariko Yokouchi, Masayuki Amagai, Ken Shiraishi, Yuji Shirakata, John R. Stanley, Akira Ishiko: <u>Non-pathogenic pemphigus foliaceus (PF) IgG acts synergistically with a directly pathogenic PF IgG to increase blistering by p38MAPK-dependent desmoglein 1 clustering.</u> J Dermatol Sci. 85(3):197-207 2017.03	2017年3月

<図書>

	研究テーマ	研究者名	表題・著者名	発表年月
1	自己免疫疾患小児由来好中球機能解析・制御 (宮崎班)	宮崎 修一	宮崎修一. クロストリジウム感染症. 今日の治療指針(2014). 山口 徹、北原光夫、福井次矢 総編集、医学書院、東京、p.238-239, 2014	2014年
2	共生真菌由来血管炎発生における Th 細胞分化解析・制御	高橋 啓	高橋啓.“結節性多発動脈炎”. リウマチ病学テキスト(改訂第2版). 診断と治療社, 2015, 253-256.	2015年
3			高橋啓, 大原関利章, 横内幸.“急性期冠動脈病変:病理”. 小児科臨床ピクシス(全訂新版) 川崎病のすべて. 中山書店, 2015, 132-135.	2015年
4			高橋啓, 大原関利章, 横内幸.“遠隔期冠動脈病変:病理”. 小児科臨床ピクシス(全訂新版) 川崎病のすべて. 中山書店, 2015, 164-165.	2015年
5			*4 高橋啓.“川崎病の病理組織学的特徴”. 川崎病の基本. 協和企画, 2015, ,23-29.	2015年
6			*4 Oharaseki T, Yokouchi Y, Enomoto Y, Takahashi K. ” <u>Histopathology of Coronary Arteritis in Acute Kawasaki Disease and Murine Systemic Vasculitis Induced by Candida Albicans Cell Wall Polysaccharide</u> ”. Kawasaki Disease. Current Understanding of the	2016年

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

			Mechanism and Evidence-Based Treatment. Springer, 2016, 11-16.	
7			*4 Takahashi K, Oharaseki T, Yokouchi Y, Enomoto Y. <u>“Histopathological Characteristics of Noncardiac Organs in Kawasaki Disease”</u> . Kawasaki Disease. Current Understanding of the Mechanism and Evidence-Based Treatment. Springer, 2016, 17-22.	2016年
8	炎症性腸疾患における腸管粘膜免疫機能解析・制御(武城班)	武城 英明	黒田正幸, 武城英明(分担) : 脂質異常症の遺伝子細胞治療-LCAT 欠損症患者への新規治療法の開発- , Annual Review 糖尿病・代謝・内分泌 2015 (寺内康夫ほか編)p128-132. 中外医学社, 東京, 2015	2015年
9			*6 武城英明: <u>LDLR ファミリーとLR11, 脂質代謝異常と関連疾患《上巻》</u> 疾患モデルの作成と利用(尾池雄一ほか編)p209-214. 株式会社エル・アイ・シー, 東京, 2015	2015年
10	リウマチ膠原病におけるアディポカイン、ミッドカイン解析・制御	川合 眞一	Kusunoki N, Kojima F, Kawai S. Effects of adipokines on prostaglandin E2 production by rheumatoid synovial fibroblasts. In: O’Keefe JM (Ed) Arachidonic Acid: Sources, Biosynthesis and Health Effects., pp 165-183, Nova Science Publishers, Inc., New York, 2014.	2014年
11			川合眞一: 関節リウマチ診療ガイドライン 2014. 今日の治療指針2016年版 1947-1952. 医学書院, 東京, 2016	2016年
12			川添麻衣, 鏑木 誠, 増岡正太郎, 進藤恵実子, 佐藤洋志, 藤尾夏樹, 鹿野孝太郎, 村岡成, 田中菜穂子, 山本竜大, 金子開知, 蓮沼智子, 川合眞一: 多発血管炎性肉芽腫症に脊髄炎と末梢神経障害を合併した一例. 関東リウマチー興味ある症例とその問題点ー第48集 151-157. 医事出版社, 東京, 2015	2016年
13			増岡正太郎, 佐藤洋志, 川添麻衣, 進藤恵実子, 山田壯一, 鹿野孝太郎, 藤尾夏樹, 村岡成, 鏑木 誠, 山本竜大, 金子開知, 田中菜穂子, 南木敏宏, 川合眞一: SLE に横静脈洞血栓症を合併した二症例の検討. 関東リウマチー興味ある症例とその問題点ー第49集 8-14. 医事出版社, 東京, 2016	2016年
14			浦部晶夫, 島田和幸, 川合眞一編集: 今日の治療薬 解説と便覧 2016 1-1376. 南江堂,	2016年

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

			東京, 2016	
15			川合眞一編集: ステロイドのエビデンス～ステロイドの使い方の答えはここにある～. 1-374. 羊土社, 東京, 2015	2015年
16	自己免疫性水疱症における自己反応性 B 細胞機能解析・制御 (石河班)	石河 晃	*7 石河晃: 「 <u>病理診断クイックリファレンス</u> 」尋常性天疱瘡. 病理と臨床. 33(臨時増刊号): 314, 2015.4. 文光堂	2015年4月

<学会発表>

	研究テーマ	研究者名	表題・著者名	発表年月
1	SATB1 遺伝子の T 細胞制御機構解析	近藤 元就	Regulation of lymphocyte development by extracellular factors and cell autonomous differentiation program. Motonari Kondo. National Yang-Ming University, Taipei, Taiwan, April, 2014. (招待講演).	2014年4月
2			早乙女壮彦, 渡邊美砂, 正田八州穂, 小峰由美子, 田中ゆり子, 郭向華, 近藤元就, 佐地勉: SATB1 遺伝子欠損マウスにおける自己免疫疾患の病態解析. 第26回 日本アレルギー学会春季臨床大会, 京都府 京都市 日本, 2014/05	2014年5月
3			田中ゆり子, 郭向華, 向津隆規, 早乙女壮彦, 桑原卓, 近藤元就: 免疫寛容における分子制御機構の解析. Kyoto T cell Conference 第24回学術集会, 日本 京都市, 2014/05	2014年5月
4			Kuwabara T., Akiba Y., Tanaka Y., Naito T., Kondo M.: SATB1 is required for development of experimental autoimmune encephalomyelitis. 43rd Annual Meeting of Japanese Society for Immunology, Kyoto, 2014/12	2014年12月
5			Naito T., Muroi S., Taniuchi I., Kondo M.: Role of Eed in T-cell lineage decision and maintenance. 43rd Annual Meeting of Japanese Society for Immunology, Kyoto, 2014/12	2014年12月
6			Tanaka Y., Sotome T., Kuwabara T., Akiba Y., Kondo M.: The function of SATB1 in a mouse model for sjogren's syndrome. 43rd Annual Meeting of Japanese Society for Immunology, Kyoto, 2014/12	2014年12月
7			田中ゆり子, 桑原卓, 秋葉靖, Kohwi-Shigematsu, T., :近藤元就: SATB1 欠	2015年5月

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

			損による自己免疫疾患発症機序の解析. Kyoto T cell Conference 第 25 回学術集会, 日本 京都市, 2015/05	
8			Matsui Y., Naito T., Tanaka Y., Kondo M. : Eed affects the differentiation of CD8 $\alpha\alpha$ +TCR $\alpha\beta$ + intraepithelial lymphocytes. 44th Annual Meeting of Japanese Society for Immunology, Sapporo, 2015/11	2015 年 11 月
9			Naito T., Tanaka Y., Taniuchi I., Kondo M. : Role of Eed in TGF β -induced Th subset differentiation. 44th Annual Meeting of Japanese Society for Immunology, Sapporo, 2015/11	2015 年 11 月
10			Akiba Y., Kuwabara T., Tanaka Y., Naito T., Kondo M. : Nuclear protein SATB1 is required for development of experimental autoimmune encephalomyelitis. 44th Annual Meeting of Japanese Society for Immunology, Sapporo, 2015/11	2015 年 11 月
11			Kuwabara T., Kondo M. : Acetyltransferase CBP modulates interleukin-2 receptor signaling. 44th Annual Meeting of Japanese Society for Immunology, Sapporo, 2015/11	2015 年 11 月
12			Tanaka Y., Inoue A., Kondo M. : CD4+ effector T cells produce both IFN γ and IL-4. 44th Annual Meeting of Japanese Society for Immunology, Sapporo, 2015/11	2015 年 11 月
13			田中ゆり子、桑原卓、井上彰子、Terumi Kohwi-Shigematsu、近藤元就 自己免疫疾患発症における SATB1 の役割 第 26 回 Kyoto T cell Conference, 2016, 5 大津市	2016 年 5 月
14			Tanaka Y., Inoue A., Kuwabara T., Akiba Y., Naito T., Kondo M. The analysis of autoimmune disease development in SATB1 deficient mice. The 45th annual meeting of the Japanese Society for Immunology 2016, 2016, 12 宜野湾市	2016 年 12 月
15			Akiba Y., Kuwabara T. Tanaka Y., Naito T., Kondo M. Nuclear protein SATB1 is required for regulation of CE4 T cell. The 44th annual meeting of the Japanese Society for Immunology 2016, 2016, 12 宜野湾市	2016 年 12 月
16	自己免疫疾患小児	宮崎 修一	遊佐貴司、松岡正樹、小原 明、宮崎修一. 好	2014 年 6 月

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

	由来好中球機能解析・制御 (宮崎班)		中球の機能解析からみた川崎病と感染症の関連性. 第88回日本感染症学会総会 福岡 2014. 6	
17			遊佐貴司、宮崎修一. アレルギー疾患小児における好中球機能解析. 平成26年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業報告会 東京 2015. 3	2015年3月
18	自己免疫疾患の臓器線維化の制御技術の開発	赤坂喜清	久保田 伊哉, 坪井 久美子, 浅田 俊樹, 乾山光子, 尾作 忠知, 馬越 俊輔, 金澤 真作, 緒方 秀昭, 三上 哲夫, 赤坂 喜清, 渋谷 和俊, 金子 弘真. 心臓腫瘍切除後に診断した甲状腺未分化多形肉腫の1例. 第27回日本内分泌外科学会総会, 福島. 2015.5.	2015年5月
19			矢尾 尊英, 秦 美暢, 牧野 崇, 肥塚 智, 大塚 創, 石田 文昭, 本間 栄, 栃木 直文, 赤坂 喜清, 伊豫田 明. 分離換気チューブで挿管管理後に Dumon スtentを留置した右主気管支狭窄の1例. 第38回日本呼吸器内視鏡学会, 東京. 2015.6.	2015年6月
20			中道美保, 赤坂喜清, 岡根谷哲哉, 今泉りさ, 荻野晶弘, 岡田恵美, 大西清. 血管増殖因子による骨髄間葉系前駆細胞の発現誘導と血管新生. 第24回日本形成外科学会基礎学術集会, 盛岡. 2015.10.	2015年10月
21			木下 利雄, 小池 秀樹, 池田 隆徳, 赤坂 喜清. bFGFによる心筋組織修復の制御と機能分子の探索. 第45回日本創傷治癒学会, 東京. 2015.11.	2015年11月
22			田中 嘉雄, 永竿 智久, 赤坂 喜清, 田口 則行, 濱本 有祐, 上野 正樹. 乳房再建を目指した in vivo Tissue Engineering Vascularized Fat Flap の作製. 第45回日本創傷治癒学会, 東京. 2015.11.	2015年11月
23			中道美保, 赤坂喜清, 大西清. bFGF誘導性骨髄間葉系前駆細胞(Fibrocyte)の同定と血管新生メカニズム(イノベーションセミナー). 第45回日本創傷治癒学会, 東京. 2015.11.	2015年11月
24			赤坂喜清. 慢性炎症の組織再構築を制御する microRNA の探索. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成27年度事業報告会, 東京. 2016.3.	2016年3月
25			Akasaka Y, Nakamichi M, Inomata N,	2016年4月

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

			Akishima-Fukasawa Y, Kinoshita T, Onishi K, Mikami T: Induction of CD34+/pro-collagen I+ fibrocytes in granulation tissues following bFGF injection into rat skin ulcer. 2016 Wound Healing Society annual meeting, Atlanta, Georgia, 2016/04	
26			Akasaka Y, Nakamichi M, Fukasawa Y, Honma N, Onisi K, Mikami T: Involvement of bone marrow derived cells (fibrocytes) in angiogenesis during wound healing. The 105th Annual Meeting of the Japanese Society of Pathology, Sendai, Japan, 2016/05	2016年5月
27			深澤由里、本間尚子、緒方秀昭、赤坂喜清、三上哲夫: 乳房 Paget 病における血管新生メカニズムの分子病理学的解析. 第 105 回日本病理学会, 仙台, 日本, 2016/05	2016年5月
28			Fujita K, Kuwabara T, Tome Y, Ito K, Tsukimoto A, Toshida Y, Wang B, Tanaka K, Mikami T, Akasaka Y,: Irradiation on NZBWF1 mice is an effective therapy for SLE- like morbidity. International congress of immunology, Melbourne, Australia, 2016/08	2016年8月
29			赤坂喜清: 慢性心不全の病理:心筋組織再構築と間質繊維化に る拡張性心不全の分子機序. 第 43 回比較心電図研究会, 東京、日本, 2016/09	2016年9月
30			中道美保、赤坂喜清、萩野晶弘、望月聖太、岡田恵美、大西清: 骨髄間葉系前駆細胞(Fibrocyte)による新規の血管新生メカニズム. 第 25 回日本形成外科学会基礎学術集会, 大阪, 2016/09	2016年9月
31			中道美保、深澤由里、藤澤千恵、三上哲夫、大西清、赤坂喜清: 骨髄間葉系前駆細胞(Fibrocyte)に る新 規の血管新生メカニズムの解明. 第 46 回日本創傷治癒学会, 東京, 2016/12	2016年12月
32			赤坂喜清: 組織修復の制御機構と新規展開. 第 149 回東邦医学会例会, 東京、日本, 2017/02	
33	共生真菌由来血管炎発生における Th 細胞分化解析・制	高橋 啓	Oharaseki T, Yokouchi Y, Katsuzaki J, Yamada H, Ihara F, Miura N, Ohno N, Saji T, Suzuki K, Naoe S, Takahashi K. Anti TNF- α Drug Inhibits	2014年5月

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

	御		Initial Process of Vasculitis in Animal Model of Kawasaki Disease. Pediatric Academic Societies and Asian Society for Pediatric Research Joint Meeting 2014, Vancouver Canada. 2014.5.	
34			Shimizu C, Jimenez-Fernandez S, Vejar M, Oharaseki T, Takahashi K, Andrea Salgado Andrea, Adriana H Tremoulet, John B Gordon, Lori B Daniels, Jane C Burns. Expression of Galectin-3 in the Myocardium and Arterial Walls of Kawasaki Disease Patients. 11th International Kawasaki Disease Symposium, Honolulu, Hawaii, USA. 2015.2.	2015年2月
35			Okamura Y, Imanaka K, Hiroe M, Matsushita T, Abe J, Ichida F, Saji T, Takahashi K, Shiraishi I, Suda K, Takeda A, Mitani Y, Yoshikane Y. Tenascin-C as a Novel Biomarker for Predicting Therapeutic Effect in Kawasaki Disease. 11th International Kawasaki Disease Symposium, Honolulu, Hawaii, USA. 2015.2.	2015年2月
36			Mitani Y, Tsuda E, Kato H, Ogawa S, Higaki T, Sawai T, Murase Y, Fujiwara M, Nakamura Y, Takahashi K, Ayusawa M, Kobayashi T, Ichida F, Matsushima M, Kamada M, Suda K, Ohashi H, Sawada H, Yokoi H, Hamaoka K. Emergence and Characterization of Premature Acute Coronary Syndrome in Young Adults with a Confirmed History of Kawasaki Disease in Japan: Clinical and Mechanistic Insight. 11th International Kawasaki Disease Symposium, Honolulu, Hawaii, USA. 2015.2.	2015年2月
37			Imanaka K, Okuma Y, Matsushita T, Hiroe M, Takahashi K. Tenascin-C can be a Novel Prognostic Biomarker For Kawasaki Disease. 11th International Kawasaki Disease Symposium, Honolulu, Hawaii, USA. 2015.2.	2015年2月
38			Yokouchi Y, Oharaseki T, Enomoto Y, Takahashi K. Tenascin-C Expression in Cardiovascular Lesion of Kawasaki Disease. 11th International Kawasaki Disease Symposium, Honolulu, Hawaii, USA. 2015.2.	2015年2月
39			Takahashi K, Oharaseki T, Yokouchi Y, Enomoto Y, Hayashi K, Asakura K, Saito K, Takada A.	2015年2月

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

			Histopathological Analysis of Sudden Death Adults with Coronary Artery Aneurysms. 11th International Kawasaki Disease Symposium, Honolulu, Hawaii,USA. 2015.2.	
40			Oharaseki T, Yokouchi Y, Enomono Y, Yamada H, Miura N, Ohno N, Takahashi K. Peroral administration of extract of <i>Candida albicans</i> induce Kawasaki disease-like vasculitis in mice. 11th International Kawasaki Disease Symposium, Honolulu, Hawaii,USA. 2015.2.	2015年2月
41			Takahashi K, Oharaseki T. <i>Candida albicans</i> -induced systemic vasculitis in mice. 11th International Kawasaki Disease Symposium, Honolulu, Hawaii,USA. 2015.2.	2015年2月
42			三谷 義英, 津田 悦子, 賀藤 均, 小川 俊一, 中村 好一, 高橋 啓, 横井 宏佳, 濱岡 建城. 種々の小児疾患の成人期での診療移行の実態と問題点、取り組み 先天性心疾患、川崎病、血液悪性腫瘍、神経、内分泌 川崎病の診療移行の問題点と方向性 成人期川崎病既往者における急性冠症候群の実態から. 第117回日本小児科学会学術集会, 名古屋. 2014.4.	2014年4月
43			高橋啓. 系統的血管炎症候群としての川崎病～病理からみた動脈破綻機構と治療戦略～(特別講演). 第10回信州川崎病フォーラム, 松本. 2014.4.	2014年4月
44			大原関利章, 横内幸, 勝碕譲児, 榎本泰典, 伊原文恵, 飯島雷輔, 原英彦, 高橋啓. 冠状動脈多岐スパズムが疑われた一部剖検. 第103回日本病理学会総会, 広島. 2014.4.	2014年4月
45			勝碕譲児, 大原関利章, 横内幸, 榎本泰典, 伊原文恵, 山本泰弘, 福永真治, 高橋啓. 顆粒膜細胞腫成分を伴ったセルトリ・ライデッヒ細胞腫の一例. 第103回日本病理学会総会, 広島. 2014.4.	2014年4月
46			横内幸, 大原関利章, 勝碕譲児, 榎本泰典, 伊原文恵, 今中恭子, 高橋啓. 川崎病の心臓および冠状動脈におけるテネインシCの発現. 第103回日本病理学会総会, 広島. 2014.4.	2014年4月
47			高橋啓, 大原関利章, 横内幸, 榎本泰典, 勝碕譲児, 林紀乃, 朝倉久美子, 斎藤一之, 高田綾. 成人期川崎病既往ならびに冠状動脈瘤	2014年4月

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

			形成剖検例の病理組織学的検討. 第 103 回日本病理学会総会, 広島. 2014.4.	
48			高橋怜奈, 小宮山慎一, 山本泰弘, 岩原実, 安田貢, 高橋啓, 久布白兼行. Lynch 症候群関連子宮体癌の 1 例. 第 55 回日本臨床細胞学会総会春期大会, 横浜. 2014.6.	2014 年 6 月
49			田口勝二, 岩原実, 藤田正志, 村石佳重, 佐々木智子, 大原関利章, 横内幸, 高橋啓, 黒田加奈美. 尿細胞診における低異型度尿路上皮癌の検討-孤立細胞を中心に-. 第 55 回日本臨床細胞学会総会春期大会, 横浜. 2014.6.	2014 年 6 月
50			三登久美子, 大牟田繁文, 富永健司, 鈴木武志, 佐藤浩一郎, 伊藤紗代, 北川智之, 加藤充, 竹中由希夫, 吉田有輝, 牧野敏之, 石井智貴, 大辻絢子, 長尾さやか, 榎本俊行, 齋田芳久, 横内幸, 高橋啓, 剛崎寛徳, 前谷容. 超音波内視鏡下穿刺術(EUS-FNA)により術前診断し得た直腸 GIST の 1 例. 第 98 回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 東京. 2014.6.	2014 年 6 月
51			高橋啓. 自然免疫と血管病変 ~川崎病疾患モデルとしてのカンジダ菌体成分由来マウス誘発血管炎の解析~(特別講演). 第 23 回内毒素・LPS 研究会, 東京. 2014.6.	2014 年 6 月
52			中橋佳大, 福田英嗣, 高橋啓, 向井秀樹. 神経線維腫症 2 型と関連のない多発性蔓状神経鞘の 1 例. 第 855 回東京地方会, 東京. 2014.7.	2014 年 7 月
53			高橋啓. 川崎病の病因と病理(シンポジウム). 第 38 回日本小児皮膚科学会学術大会, 東京. 2014.7.	2014 年 7 月
54			三登久美子, 富永健司, 鈴木武志, 佐藤浩一郎, 根本夕夏子, 伊藤紗代, 加藤充, 北川智之, 平山圭穂, 吉田有輝, 牧野敏之, 前谷容, 石井智貴, 長尾さやか, 榎本俊行, 齋田芳久, 勝碯讓児, 横内幸, 高橋啓. 内視鏡により大腸穿孔を来したクローン病の 1 例. 日本消化器病学会関東支部第 331 回例会, 東京. 2014.9.	2014 年 9 月
55			松清大, 渡邊学, 浅井浩司, 齋藤智明, 石井智貴, 新妻徹, 草地信也, 齋田芳久, 中村陽一, 榎本俊行, 長尾二郎, 高橋啓, 大原関利章. 胆道原発内分泌細胞癌の 2 切除例. 第 50 回日本胆道学会総会, 東京. 2014.9.	2014 年 9 月
56			大原関利章, 横内幸, 榎本泰典, 山田仁美,	2014 年 9 月

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

			三浦典子, 大野尚仁, 高橋 啓. CAWS の経口投与による血管炎誘発実験. 系統的血管炎疾患モデル研究会, 東京. 2014.9.	
57			大原関利章, 横内 幸, 榎本泰典, 山田仁美, 三浦典子, 大野尚仁, 高橋 啓. <i>Candida albicans</i> 菌体由来物質 (CAWS)によるマウス誘発血管炎. 系統的血管炎疾患モデル研究会, 東京. 2014.9.	2014年9月
58			高橋 啓, 大野尚仁, 濱岡建城, 小川俊一, 大原関利章, 二瓶浩一. 川崎病患儿血清における β -グルカン、 α -マンナンの関与. 系統的血管炎疾患モデル研究会, 東京. 2014.9.	2014年9月
59			大原関利章, 横内幸, 榎本泰典, 勝碯讓児, 山田仁美, 伊原文恵, 三浦典子, 大野尚仁, 佐地勉, 鈴木和男, 直江史郎, 高橋啓. エタネルセプトによるCAWS誘導マウス動脈炎抑制機序の病理組織学的検討. 日本血管病理研究会第19回学術集会, 東京. 2014.10.	2014年10月
60			平井希, 齋藤紀彦, 青木和哉, 石井匡, 谷真理子, 佐藤健一郎, 中山晴雄, 原科純一, 伊豆蔵英明, 伊藤圭介, 櫻井貴敏, 大原関利章, 高橋啓, 岩淵聡. 高齢者に発生した小脳原発悪性神経膠腫の3例. 日本脳神経外科学会第73回学術総会, 東京. 2014.10.	2014年10月
61			田中崇, 藤崎純, 金子南紀子, 平栗有紗, 野呂聖絵, 高木厚子, 関口隆三, 高橋啓, 鈴木真, 前谷容. 腎悪性リンパ腫が疑われた1症例. 日本超音波医学会 関東甲信越地方会 第26回学術集会, 東京. 2014.10.	2014年10月
62			大原関利章, 横内幸, 榎本泰典, 勝碯讓児, 山田仁美, 三浦典子, 大野尚仁, 高橋啓. カンジダ菌体抽出物の経口投与による川崎病類似血管炎誘発実験. 第34回日本川崎病学会・学術集会, 東京. 2014.10.	2014年10月
63			横内幸, 大原関利章, 榎本泰典, 勝碯讓児, 高橋啓. 急性期川崎病の心筋および冠状動脈における組織球系細胞の免疫組織学的検討. 第34回日本川崎病学会・学術集会, 東京. 2014.10.	2014年10月
64			高橋啓, 大原関利章, 横内幸, 榎本泰典, 勝碯讓児, 林紀乃, 朝倉久美子, 齋藤一之, 高田綾. 冠状動脈瘤形成成人剖検例の病理組織	2014年10月

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

			学的検討. 第34回日本川崎病学会・学術集会, 東京. 2014.10.	
65			大原関利章, 横内幸, 榎本泰典, 山田仁美, 三浦典子, 大野尚仁, 直江史郎, 鈴木和男, 高橋啓. 川崎病類似マウス血管炎モデルとサイトカイン. 第20回MPO研究会, 熱海. 2014.11.	2014年11月
66			村石佳重, 佐々木智子 藤田正志, 岩原実, 田口勝二, 勝碕譲児, 榎本泰典, 横内幸, 大原関利章, 高橋啓, 山下裕正. 心臓原発血管肉腫の1例. 第53回日本臨床細胞学会秋期大会, 山口. 2014.11.	2014年11月
67			堀江茉莉, 久保峻, 田中友里, 浅川貴介, 松金愛, 林俊秀, 常喜信彦, 長谷弘記, 大原関利章, 高橋啓. ループス腎炎との鑑別が困難であったヒトパルボウイルス B19 感染後糸球体腎炎の1例. 日本内科学会 第611回関東地方会, 東京. 2014.12.	2014年12月
68			池田彩子, 新山史朗, 中橋佳大, 高橋美咲, 福田英嗣, 高橋啓, 向井秀樹. 男性の腋窩に生じた巨大副乳の1例. 第859回東京地方会, 東京. 2015.1.	2015年1月
69			齋藤紀彦, 平井希, 高萩周作, 八木橋彰憲, 石井正三, 平元侑, 中山晴雄, 原科純一, 林盛人, 木村仁, 伊豆蔵英明, 伊藤圭介, 青木和哉, 櫻井貴敏, 岩渕聡, 高橋啓, 大原関利章, 澁谷誠. Epithelioid GBMと考えられた1例. 第114回東京脳腫瘍研究会, 東京. 2015.1.	2015年1月
70			大原関利章, 高橋啓. カンジダ菌体由来抽出物によるマウス系統的血管炎発症における TNF- α の関与. 私立大学戦略的基盤形成支援事業報告会, 東京. 2015.3.	2015年3月
71			Enomoto Y, Yokouchi Y, Oharaseki T, Imanaka K, Takahashi K. Histological analysis of Tenascin-C expression in the cardiovascular lesions of Kawasaki disease. 17th International Vasculitis and ANCA Workshop, London, UK. 2015.4.	2015年4月
72			Takahashi K, Oharaseki T, Yokouchi Y, Enomoto Y, Miura N, Ono N. Effect of the peroral administration of Candida-derived substances on the development of murine systemic vasculitis; an animal model of Kawasaki disease. 17th	2015年4月

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

			International Vasculitis and ANCA Workshop, London,UK. 2015.4.	
73			榎本泰典, 大原関利章, 横内幸, 小倉剛久, 桐林孝治, 中峯寛和, 高橋啓. シェーグレン症候群(SS)に乳腺および肺 B 細胞性リンパ腫(BCL)を異時性に発生した1例. 第104回日本病理学会総会, 名古屋. 2015.5.	2015年5月
74			横内幸, 榎本泰典, 大原関利章, 伊原文恵, 直江史郎, 高橋啓. 急性期川崎病で浸潤する組織球系細胞の免疫組織学的検討. 第104回日本病理学会総会, 名古屋. 2015.5.	2015年5月
75			大原関利章, 横内幸, 榎本泰典, 山田仁美, 伊原文恵, 三浦典子, 大野尚仁, 高橋啓. カンジダ細胞壁多糖誘導川崎病類似マウス血管炎誘発実験—経口投与による血管炎誘発活性の検討—. 第104回日本病理学会総会, 名古屋. 2015.5.	2015年5月
76			齋藤紀彦, 平井希, 青木和哉, 平元侑, 原科純一, 中山晴雄, 林盛人, 大原関利章, 高橋啓, 岩渕聡. Bevacizumab 療法後に特異な進展様式を示した膠芽腫剖検例の病理学的検討. 第33回日本脳腫瘍病理学会学術集会, 高松. 2015.5.	2015年5月
77			平井希, 齋藤紀彦, 青木和哉, 平元侑, 原科純一, 中山晴雄, 林盛人, 大原関利章, 高橋啓, 岩渕聡. 高齢者に発生した小脳原発悪性神経膠腫の3例. 第33回日本脳腫瘍病理学会学術集会, 高松. 2015.5.	2015年5月
78			森直己, 門松賢, 高橋利奈, 田島恵莉香, 東邑美里, 藤村慶子, 白石淳一, 高橋啓, 松浦友一. 肉芽腫性血管炎を伴う肉芽腫性間質性腎炎の原因鑑別に苦慮した一例. 第58回日本腎臓学会学術総会, 愛知. 2015.6.	2015年6月
79			湯浅瑛介, 佐々木智子, 村石佳重, 藤田正志, 岩原実, 田口勝二, 榎本泰典, 横内幸, 高橋啓, 福田英嗣. 扁平上皮癌を伴ったメルケル細胞癌の1例. 第56回日本臨床細胞学会総会春季大会, 松江. 2015.6.	2015年6月
80			日原大輔, 佐藤浩一郎, 富永健司, 鈴木武志, 根本夕夏子, 伊藤紗代, 加藤充, 北川智之, 平山圭穂, 吉田有輝, 三登久美子, 高木厚子, 斉田芳久, 高橋啓, 前谷容. 直腸肛門管尖形	2015年6月

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

			コンジローマに対し内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD)を施行した一例. 第100回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 東京. 2015.6.	
81			大原関利章, 横内幸, 榎本泰典, 三浦典子, 大野尚仁, 佐地勉, 鈴木和男, 高橋啓. Candida 細胞壁由来糖タンパク質による川崎病類似マウス系統的血管炎発症におけるTNF- α の関与. 第26回日本生体防御学会学術総会, 東京. 2015.7.	2015年7月
82			大原関利章, 横内幸, 榎本泰典, 山田仁美, 三浦典子, 大野尚仁, 佐地勉, 高橋啓. カンジダ菌体抽出物の経口投与による川崎病類似血管炎誘発実験. 第51回日本小児循環器学会総会, 東京. 2015.7.	2015年7月
83			高橋啓. 成人期に突然死した川崎病既往例の冠状動脈病変-病理学的見地から-. 第19回川崎病治療懇話会, 東京. 2015.7.	2015年7月
84			横内幸, 大原関利章, 榎本泰典, 今中(吉田)恭子, 高橋啓. 川崎病心血管病変におけるテネシンC発現. 第51回日本小児循環器学会総会, 東京. 2015.7.	2015年7月
85			武谷千晶, 長崎澄人, 小宮山慎一, 高橋啓, 久布白兼行. 術前に子宮体部悪性腫瘍が疑われた卵巣腫瘍の一例. 第57回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 岩手. 2015.8.	2015年8月
86			高橋啓, 大原関利章, 横内幸, 榎本泰典, 林紀乃, 朝倉久美子, 斎藤一之, 高田綾. 成人期川崎病剖検症例にみられた冠状動脈病変について(シンポジウム). 第24回日本心血管インターベンション治療学会学術大会, 福岡. 2015.8.	2015年8月
87			高橋啓. 知っている役立つ川崎病血管炎の基礎病理(特別講演). 相模原小児科セミナー, 相模原. 2015.9.	2015年9月
88			高橋啓. 川崎病血管炎の病理組織学的検討ー発病から粥状動脈硬化症の関与までー(特別講演). 第16回北海道川崎病研究会, 北海道. 2015.9.	2015年9月
89			武谷千晶, 長崎澄人, 小宮山慎一, 高橋啓, 久布白兼行. 複雑型子宮内膜異型増殖症にAPAM(子宮ポリープ状異型腺筋腫)を合併したと考えられる1例. 第130回関東連合産科婦人	2015年10月

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

			科学会総会, 千葉. 2015.10.	
90			大原関利章, 横内幸, 榎本泰典, 沖裕子, 三浦典子, 大野尚仁, 高橋啓. カンジダ菌体抽出物の経口投与による血管炎誘発実験、第2報. 第35回日本川崎病学会・学術集会, 鹿児島. 2015.10.	2015年10月
91			横内幸, 大原関利章, 榎本泰典, 直江史郎, 高橋啓. 急性期川崎病心血管病変におけるマクロファージ形質の病理組織学的検討(第2報). 第35回日本川崎病学会・学術集会, 鹿児島. 2015.10.	2015年10月
92			齋藤紀彦, 青木和哉, 平井希, 藤田聡, 平元侑, 中山晴雄, 林盛人, 伊藤圭介, 木村仁, 櫻井貴敏, 大原関利章, 高橋啓, 岩渕聡. 神経膠芽腫における Notch シグナル発現解析. 日本脳神経外科学会第74回学術総会, 札幌. 2015.10.	2015年10月
93			平井希, 齋藤紀彦, 青木和哉, 藤田聡, 平元侑, 中山晴雄, 林盛人, 伊藤圭介, 木村仁, 櫻井貴敏, 大原関利章, 高橋啓, 岩渕聡. 肺転移を伴わない骨盤内臓器からの転移性脳腫瘍症例の検討. 日本脳神経外科学会第74回学術総会, 札幌. 2015.10.	2015年10月
94			高橋啓, 大原関利章, 横内幸, 榎本泰典, 渋谷宏行, 佐藤誠一. 全身動脈に限局性内膜肥大による狭窄を生じ、心筋梗塞で死亡した一小児剖検例. 第20回日本血管病理研究会, 大阪. 2015.10.	2015年10月
95			榎本泰典, 横内幸, 大原関利章, 藤澤有希, 亀田秀人, 桐林孝治, 高橋啓. 胸腔鏡下肺生検(VATS)にて診断した MPO-ANCA 陽性の多発血管炎性肉芽腫症(GPA)の一例. 第20回日本血管病理研究会, 大阪. 2015.10.	2015年10月
96			田口勝二, 藤田正志, 村石佳恵, 佐々木智子, 湯浅瑛介, 大原関利章, 横内幸, 榎本泰典, 高橋啓, 吉川衛. 副鼻腔真菌症の検討. 第54回日本臨床細胞学会秋期大会, 名古屋. 2015.11.	2015年11月
97			柿崎奈々子, 斉田芳久, 榎本俊行, 竹下恵美子, 高林一浩, 長尾さやか, 渡邊良平, 中村陽一, 草地信也, 横内幸, 高橋啓. 急速な発育を示した小腸腸間膜原発平滑筋肉腫の1例.	2015年11月

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

			第 77 回 日本臨床外科学会総会, 福岡. 2015.11.	
98			新妻 徹, 齊田芳久, 榎本俊行, 竹下恵美子, 高林一浩, 長尾さやか, 長尾二郎, 草地信也, 宮内倫沙, 富永健司, 前谷 容, 横内 幸, 高 橋 啓. 貧血を契機に診断された小腸海綿状 血管腫の 1 例. 第 77 回 日本臨床外科学会総 会, 福岡. 2015.11.	2015 年 11 月
99			日原大輔, 宮内倫沙, 松井貴史, 三枝善伯, 横内幸, 高橋啓, 前谷容. 脈絡膜悪性黒色腫 の肝転移に経皮的ラジオ波焼灼法 (RFA) を施 行した 1 例. 第 41 回日本肝臓学会西部会, 名 古屋. 2015.12.	2015 年 12 月
100			宮内倫沙, 富永健司, 根本夕夏子, 三枝善伯, 北川智之, 森麻紀子, 吉田有輝, 小山圭穂, 松井貴史, 高橋厚子, 日原大輔, 堀江義政, 山本修平, 長尾さやか, 榎本俊行, 齊田芳久, 横内幸, 高橋啓, 前谷容. 貧血が契機となり発 見された空腸海綿状血管腫の 1 例. 第 101 回 日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 東京. 2015.12.	2015 年 12 月
101			沼野藤人, 高橋啓, 大原関利章, Shimizu C, Jimenez-Fernandez S, Vejar M, Salgado A, Adriana H. Tremoulet, John B. Gordon, J C. Burns, Lori B. Daniels. 川崎病巨大冠動脈瘤 患者における心筋・血管線維化の新しいバイオ マーカー Galectin-3. 第 12 回新潟川崎病研究 会, 新潟. 2016.2.	2016 年 2 月
102			高橋啓. 川崎病冠動脈炎 -発症から遠隔期 まで-(特別講演). 第 12 回新潟川崎病研究会, 新潟. 2016.2.	2016 年 2 月
103			高橋啓. 川崎病の心血管病理(特別講演). 第 7 回 川崎病セミナー in 千葉, 千葉. 2016.2.	2016 年 2 月
104			高橋啓. ANCA 関連血管炎と自己抗体. 第 4 回 東京血管炎研究会, 東京. 2016.3.	2016 年 3 月
105			高橋啓. 血管炎症候群の病理. 第 80 回日本循 環器学会学術集会, 仙台. 2016.3.	2016 年 3 月
106			大原関利章, 高橋啓. カンジダ細胞壁由来多 糖誘導血管炎における血清サイトカインの検討 —多項目同時測定システムを用いた検討—. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「自己 免疫疾患の制御をめざす研究拠点形成」平成	2016 年 3 月

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

			27 年度事業報告会, 東京. 2016.3.	
107			Muraishi Y, Taguchi K, Fujita M, Sasaki T, Yuasa Y, Oharaseki T, Yokouchi Y, Enomoto Y, Takahashi K, Yoshikawa M. Usefulness of morphological examination of fungi in noninvasive fungal rhinosinusitis. The 19th International Congress of Cytology (ICC2016), Kanagawa. 2016.5.	2016 年 5 月
108			大原関利章, 横内幸, 榎本泰典, 高橋啓. 川崎病血管炎の臨床病理学的特徴と病原体関連分子パターン (PAMPs) (シンポジウム). 第 105 回日本病理学会総会, 仙台. 2016.5.	2016 年 5 月
109			横内幸, 榎本泰典, 大原関利章, 伊原文恵, 直江史郎, 高橋啓. 川崎病急性期の心血管病変に浸潤するマクロファージ形質 (第 2 報). 第 105 回日本病理学会総会, 仙台. 2016.5.	2016 年 5 月
110			大原関利章, 横内幸, 榎本泰典, 伊原文恵, 沖祐子, 三浦典子, 大野尚仁, 高橋啓. カンジダ細胞壁由来多糖の経口投与による川崎病類似血管炎誘発実験、第 2 報. 第 105 回日本病理学会総会, 仙台. 2016.5.	2016 年 5 月
111			榎本泰典, 横内幸, 大原関利章, 佐藤若菜, 竹田幸子, 伊原文恵, 直江史郎, 高橋啓. 急性期川崎病リンパ節病変におけるマクロファージ形質に関する病理組織学的検討. 第 105 回日本病理学会総会, 仙台. 2016.5.	2016 年 5 月
112			高橋啓, 大原関利章, 横内幸, 榎本泰典, 佐藤若菜. 川崎病の冠動脈後遺症の今 成人期の長期予後から再び考える 成人期川崎病冠状動脈後遺病変における粥状動脈硬化症の関与 (シンポジウム). 第 119 回 日本小児科学会学術集会, 北海道. 2016.5.	2016 年 5 月
113			大熊喜彰, 今中恭子, 吉兼由佳子, 須田憲治, 武田充人, 佐地勉, 市田露子, 高橋啓, 廣江道昭, 七野浩之. 川崎病急性期において初回治療の有効性を測定する新規スコアの開発. 第 119 回 日本小児科学会学術集会, 北海道. 2016.5.	2016 年 5 月
114			齋藤紀彦, 青木和哉, 平井希, 岩間淳哉, 藤田聡, 中山晴雄, 林盛人, 大原関利章, 高橋啓, 岩淵聡. 神経膠芽腫に対するベバシズマブ療法による腫瘍血管正常化作用の検討. 第	2016 年 5 月

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

			34 回日本脳腫瘍病理学会学術集会, 東京. 2016.5.	
115			藤田正志, 村石佳恵, 湯浅瑛介, 田口勝二, 榎本泰典, 横内幸, 大原関利章, 高橋啓, 吉川衛. 副鼻腔真菌症におけるグロコット染色法の検討. 第 57 回 日本臨床細胞学会総会 春期大会, 横浜. 2016.5.	2016 年 5 月
116			横内幸, 神農陽子, 大原関利章, 佐藤若菜, 竹田幸子, 榎本泰典, 伊原文恵, 直江史郎, 高橋啓. 超急性期死亡川崎病症例の組織学的再検討. 第 35 回関東川崎病研究会, 東京. 2016.6.	2016 年 6 月
117			横内幸, 榎本泰典, 大原関利章, 伊原文恵, 直江史郎, 高橋啓. 川崎病急性期の心血管病変に浸潤するマクロファージ形質. 第 52 回日本小児循環器学会総会, 東京. 2016.7.	2016 年 7 月
118			大原関利章, 横内幸, 榎本泰典, 佐藤若菜, 竹田幸子, 高橋啓. 川崎病動脈炎モデルにおける TNF- α の関与についての組織学的検討. 第 1 回東邦大学医療センター大橋病院医学会, 東京. 2016.7.	2016 年 7 月
119			大原関利章, 横内幸, 榎本泰典, 佐藤若菜, 竹田幸子, 石橋健一, 三浦典子, 大野尚仁, 高橋啓. <i>Candida albicans</i> 細胞壁多糖誘導川崎病類似血管炎モデルにおけるデクチン 2 の関与. 第 36 回日本川崎病学会・学術集会, 神奈川. 2016.9.	2016 年 9 月
120			榎本泰典, 横内幸, 大原関利章, 佐藤若菜, 竹田幸子, 直江史郎, 高橋啓. 急性期川崎病リンパ節病変における組織球系細胞の免疫組織学的検討. 第 36 回日本川崎病学会・学術集会, 神奈川. 2016.9.	2016 年 9 月
121			大原関利章, 横内幸, 榎本泰典, 佐藤若菜, 竹田幸子, 石橋健一, 三浦典子, 大野尚仁, 高橋啓. <i>Candida albicans</i> 細胞壁多糖誘導マウス血管炎の血管炎発症に及ぼすデクチンの役割. 第 60 回日本医真菌学会総会, 東京. 2016.10.	2016 年 10 月
122			大原関利章, 横内幸, 榎本泰典, 佐藤若菜, 竹田幸子, 石橋健一, 三浦典子, 大野尚仁, 高橋啓. カンジダ細胞壁多糖誘導マウス系統的血管炎モデルにおけるデクチン 2 の関与. 第	2016 年 10 月

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

			21 回日本血管病理研究会, 東京. 2016.10.	
123			萬来めぐみ, 高橋怜奈, 武谷千晶, 小宮山慎一, 高橋啓, 久布白兼行. 若年で発症した子宮平滑筋肉腫の一例. 第 132 回関東連合産科婦人科学会学術集会, 東京. 2016.11.	2016 年 11 月
124			湯浅瑛介, 佐々木智子, 村石佳重, 藤田正志, 榎本泰典, 横内幸, 大原関利章, 高橋啓, 森脇宏人. 穿刺吸引細胞診で組織型推定に苦慮した耳下腺腺房細胞癌の 1 例. 第 55 回日本臨床細胞学会秋期大会, 大分. 2016.11.	2016 年 11 月
125			大原関利章, 横内幸, 榎本泰典, 佐藤若菜, 竹田幸子, 石橋健一, 三浦典子, 大野尚仁, 高橋啓. カンジダ細胞壁多糖誘導マウス血管炎に及ぼすデクチンの役割. 第 22 回 MPO 研究会, 京都. 2016.12.	2016 年 11 月
126			榎本泰典, 大原関利章, 横内幸, 佐藤若菜, 竹田幸子, 高橋啓, 林典行, 能戸辰徳, 原英彦, 石川道郎, 深沢祐之. 骨髄形質細胞腫瘍を伴った全身性アミロイドーシスの 1 剖検例. 第 16 回世田谷区医師会医学会, 東京. 2016.12.	2016 年 12 月
127			Oharaseki T, Yokouchi Y, Enomoto Y, Sato W, Takeda S, Ishibashi K, Miura N, Ohno N, Takahashi K. Dectin-2 is necessary for developing experimental vasculitis induced by Candida albicans cell wall polysaccharide. The 18th International Vasculitis & ANCA Workshop, Tokyo. 2017.3.	2017 年 3 月
128			Yokouchi Y, Oharaseki T, Enomoto Y, Sato W, Takeda S, Naoe S, Takahashi K. Phenotypic characteristics of activated macrophages in the vasculitis lesions of acute stage of Kawasaki disease. The 18th International Vasculitis & ANCA Workshop, Tokyo. 2017.3.	2017 年 3 月
129	炎症性腸疾患における腸管粘膜免疫機能解析・制御(武城班)	武城 英明	武城英明: 脂肪細胞をもちいた遺伝子細胞治療, 第 28 回日本小児脂質研究会(特別講演), 千葉, 2014.11	2014 年 11 月
130			武城英明: シンポジウム「動脈硬化リスクの制圧に向けたストラテジー」(シンポジウム). メタボリックシンドローム・肥満症の対策と治療指針. 第 15 回動脈硬化教育フォーラム, 大阪, 2015.2	2015 年 2 月
131			Jiang M, Bujo H: Migration modulator LR11, an	2014 年 7 月

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

			LDL receptor family member, is a novel target molecule for the detection and treatment of pathological vascular intimal smooth muscle cells. 第46回日本動脈硬化学会総会・学術集会, 東京, 2014.7	
132			佐藤俊哉, 村野武義, 武城英明, 北村真, 蛭田啓之, 池宮城慶寛, 太田康:副鼻腔炎組織中IgE値は好酸球性副鼻腔炎の診断や重症度の評価に有用である. 第61回日本臨床検査医学会学術集会,福岡,2014.11	2014年11月
133			寺井謙介, 河井貴行, 村野武義, 姜美子, 徳山宣, 蛭田啓之, 武城英明:胆道癌及び膵癌で胆汁中sLR11は増加する. 第61回日本臨床検査医学会学術集会,福岡,2014.11	2014年11月
134			渡部俊之, 根間敏郎, 村野武義, 武城英明:直接測定法によるLDLコレステロールが総コレステロールより高値となった症例. 第61回日本臨床検査医学会学術集会,福岡,2014.11	2014年11月
135			村野武義, 山口崇, 沢田正二郎, 片桐秀樹, 蛭田啓之, 武城英明:リポ蛋白リパーゼ機能異常LPL243は基質修復により水解活性が改善する. 第61回日本臨床検査医学会学術集会,福岡,2014.11	2014年11月
136			伊藤翔子, 根間敏郎, 村野武義, 武城英明:グリコアルブミンとヘモグロビンA1cの乖離要因としてのeGFRの検査学的意義の検討. 第61回日本臨床検査医学会学術集会,福岡,2014.11	2014年11月
137			Kuroda M, Adriaan G Holleboom, Erik S.G. Stroes, Asada S, Aoyagi Y, Kamata K, Yamashita S, Ishibashi S, Saito Y, Bujo H: Lipoprotein subfractions highly associated with renal damage in familial LCAT deficiency. MSDA2014.Kyoto,2014.9	2014年9月
138			Jiang M, Bujo H: LR11, a cell migration regulator, is a novel biomarker for pathological vascular intimal smooth muscle cells. MSDA2014.Kyoto,2014.9	2014年9月
139			Murano T, Nagayama D, Saiki A, Tatsuno I, Shirai K, Bujo H: Apolipoprotein A-V Gly 185Cys is a possible risk factor for severe hypertriglyceridemia in patients with normal circulating lipoprotein lipase protein	2014年9月

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

			concentrations. MSDA2014.Kyoto,2014.9	
140	リウマチ膠原病におけるアディポカイン、ミッドカイン解析・制御	川合 眞一	Sato H, Muraoka S, Kusunoki N, Kawazoe M, Masuoka S, Shindo E, Fujio N, Shikano K, Kaburaki M, Tanaka N, Kaneko K, Yamamoto T, Hasunuma T, Kawai S: Resistin directly stimulates chemokine gene expressions in rheumatoid synovial fibroblasts: DNA microarray analysis. European League Against Rheumatism (EULAR 2015), Rome, Italy, 2015/06	2015年6月
141			Fujio N, Muraoka S, Shikano K, Kaburaki M, Kawazoe M, Shindo E, Sato H, Masuoka S, Tanaka N, Kaneko K, Yamamoto T, Kusunoki N, Hasunuma T, Kawai S: Suppression of adrenal function is obvious when compared to that of pituitary function in patients with systemic autoimmune diseases after glucocorticoid therapy. European League Against Rheumatism (EULAR 2015), Rome, Italy, 2015/06	2015年6月
142			Kawai S: Low molecular weight immunosuppressant therapy of autoimmune diseases. 12th World Congress on Inflammation, Boston, USA, 2015/08	2015年8月
143			藤尾夏樹, 増岡正太郎, 川添麻衣, 進藤恵実子, 佐藤洋志, 鹿野孝太郎, 鏑木 誠, 村岡成, 田中菜穂子, 金子開知, 山本竜大, 楠 夏子, 蓮沼智子, 川合眞一: リウマチ性疾患におけるステロイドによる下垂体-副腎機能抑制の乖離に関する検討. 第59回日本リウマチ学会総会・学術集会, 名古屋, 2015/04	2015年4月
144			鏑木 誠, 増岡正太郎, 進藤恵実子, 川添麻衣, 佐藤洋志, 鹿野孝太郎, 藤尾夏樹, 村岡成, 田中菜穂子, 金子開知, 山本竜大, 高木賢治, 蓮沼智子, 川合眞一: 関節リウマチに対するセルトリズマブペゴルの非ローディング症例の検討. 第59回日本リウマチ学会総会・学術集会, 名古屋, 2015/04	2015年4月
145			増岡正太郎, 田中菜穂子, 楠 夏子, 山本竜大, 金子開知, 村岡 成, 鏑木 誠, 鹿野孝太郎, 藤尾夏樹, 佐藤洋志, 川添麻衣, 進藤恵実子, 高木賢治, 蓮沼智子, 川合眞一: 膠原	2015年4月

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

			病における動脈硬化病変へのアディポカインの関与と長期ステロイド療法の影響. 第59回日本リウマチ学会総会・学術集会, 名古屋, 2015/04	
146			川添麻衣, 金子開知, 鹿野孝太郎, 増岡正太郎, 佐藤洋志, 進藤恵実子, 藤尾夏樹, 鍋木誠, 村岡 成, 田中菜穂子, 山本竜大, 楠 夏子, 蓮沼智子, 川合眞一: ステロイド治療における Wnt/ β -catenin 経路の臨床的意義. 第59回日本リウマチ学会総会・学術集会, 名古屋, 2015/04	2015年4月
147			川合眞一: 関節リウマチの実診療におけるメトトレキサートの使い方 ABC. 第59回日本リウマチ学会総会・学術集会, 名古屋, 2015/04	2015年4月
148			進藤恵実子, 蓮沼智子, 楠 夏子, 増岡正太郎, 川添麻衣, 佐藤洋志, 藤尾夏樹, 鹿野孝太郎, 鍋木 誠, 村岡 成, 山本竜大, 金子開知, 高木賢治, 川合眞一: 関節リウマチ患者滑膜におけるミッドカインの意義. 第59回日本リウマチ学会総会・学術集会, 名古屋, 2015/04	2015年4月
149			鹿野孝太郎, 金子開知, 川添麻衣, 増岡正太郎, 佐藤洋志, 進藤恵実子, 藤尾夏樹, 鍋木誠, 村岡 成, 田中菜穂子, 山本竜大, 蓮沼智子, 川合眞一: リウマチ性疾患患者におけるデノスマブの有用性に関する研究. 第59回日本リウマチ学会総会・学術集会, 名古屋, 2015/04	2015年4月
150			山本竜大, 増岡正太郎, 川添麻衣, 進藤恵実子, 佐藤洋志, 藤尾夏樹, 鹿野孝太郎, 村岡成, 鍋木 誠, 田中菜穂子, 金子開知, 楠 夏子, 高木賢治, 蓮沼智子, 川合眞一: folypolyglutamate synthase の遺伝子多型は、関節リウマチ患者における細胞内メトトレキサートポリグリタメート濃度の主要な規定因子である. 第59回日本リウマチ学会総会・学術集会, 名古屋, 2015/04	2015年4月
151			佐藤洋志, 村岡 成, 増岡正太郎, 川添麻衣, 進藤恵実子, 藤尾夏樹, 鹿野孝太郎, 鍋木誠, 田中菜穂子, 金子開知, 山本竜大, 楠 夏子, 蓮沼智子, 川合眞一: 関節リウマチ患者滑膜におけるレジスチン刺激による網羅的遺伝子	2015年4月

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

			発現解析. 第59回日本リウマチ学会総会・学術集会, 名古屋, 2015/04	
152			佐々木翔一, 金子開知, 川合眞一: ステロイドとリツキシマブにより透析離脱した顕微鏡的多発血管炎の2例. 第59回日本リウマチ学会総会・学術集会, 名古屋, 2015/04	2015年4月
153			田中菜穂子, 増岡正太郎, 川合眞一: 膠原病疾患における動脈硬化性病変とステロイド療法の影響. 第112回日本内科学会総会, 京都, 2015/04	2015年4月
154			川合眞一: 膠原病治療におけるステロイドの使い方. 第112回日本内科学会総会, 京都, 2015/04	2015年4月
155			増岡正太郎, 佐藤洋志, 山田壯一, 川添麻衣, 進藤恵実子, 鹿野孝太郎, 藤尾夏樹, 鏑木誠, 村岡 成, 金子開知, 田中菜穂子, 山本竜大, 蓮沼智子, 川合眞一: SLEに横静脈洞血栓症を合併した2症例の検討. 第56回関東リウマチ研究会, 東京, 2015/06	2015年6月
156			古谷健太, 中嶋 均, 佐々木陽典, 佐藤高弘, 福井悠人, 河越尚幸, 貴島 祥, 前田 正, 石井孝政, 渡邊利泰, 宮崎泰斗, 原 規子, 本田善子, 財 裕明, 島田長人, 吉澤定子, 石河晃, 川合眞一, 瓜田純久: ノルウェー疥癬の経験. 第26回日本臨床寄生虫学会大会, 宇都宮, 2015/06	2015年6月
157			楠 夏子, 高松 諒, 川合眞一: iPS細胞由来血管内皮細胞のプロスタグランジン産生に関する研究. 第36回日本炎症・再生医学会, 東京, 2015/07	2015年7月
158			川合眞一: 炎症とアディポカイン. 第36回日本炎症・再生医学会, 東京, 2015/07	2015年7月
159			川合眞一: 合成抗リウマチ薬の安全使用のために. 第27年度リウマチケア専門職制度研修会, 東京, 2015/08	2015年8月
160			川合眞一: 関節リウマチ診療におけるバイオシミラーの臨床的評価と意義. 第50回九州リウマチ学会, 鹿児島, 2015/09	2015年9月
161			佐藤洋志, 増岡正太郎, 山田壯一, 進藤恵実子, 川添麻衣, 鹿野孝太郎, 藤尾夏樹, 鏑木誠, 村岡 成, 金子開知, 田中菜穂子, 山本竜大, 南木敏宏, 川合眞一: 横静脈洞血栓症を	2015年10月

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

			合併した全身性エリテマトーデス2症例の検討. 第43回日本臨床免疫学会, 神戸, 2015/10	
162			山田壯一, 村岡 成, 鹿野孝太郎, 増岡正太郎, 川添麻衣, 進藤恵実子, 藤尾夏樹, 佐藤洋志, 田中菜穂子, 金子開知, 南木敏宏, 川合眞一: リツキシマブにて完解した劇症型抗リン脂質抗体症候群(CAPS)の1例. 第26回日本リウマチ学会関東支部学術集会, 栃木, 2015/12	2015年12月
163			川合眞一: 公知申請制度による適応外医薬品の承認:我が国の歴史と現状. 第89回日本薬理学会年会, 横浜, 2016/03	2016年3月
164			川合眞一: 自己免疫疾患に対する薬剤開発における臨床薬理学の意義. 第89回日本薬理学会年会, 横浜, 2016/03	2016年3月
165	自己免疫性水疱症における自己反応性 B 細胞機能解析・制御 (石河班)	石河 晃	Yoshida K , Ishii K , Shimizu A , Yokouchi M , Stanley JR , and Ishiko A: Combination of pemphigus foliaceus IgG monoclonal antibodies (mAbs) promotes desmoglein 1 clustering. 2014 Annual Meeting of the Society for Investigative Dermatology, Albuquerque, New Mexico, 2014.5.9	2014年5月
166			伊藤 崇, 石井 健, 大橋則夫, 陳 怡如, 江野澤佳代, 石河 晃:経過中に疱疹状天疱瘡の皮疹をみた落葉状天疱瘡の1例.第85回日本皮膚科学会東京地方会, 東京, 2014.7.12	2014年7月
167			田中博子, 吉田憲司, 根岸亜津佐, 石井 健, 石河 晃, 江藤宏光(北里大), 佐々木貴史, 久保亮治(慶大):Dowling-Meara 型単純型表皮水疱症の1例. 第85回日本皮膚科学会東京地方会, 東京, 2014.9.20	2014年9月
168			吉田憲司, 石井 健, 田中博子, 伊藤 崇, 臼井真理子, 栗川幸子(大田区), 石河 晃:脱毛を生じた落葉状天疱瘡の1例. 第36回水疱症研究会, 東京, 2014.10.19	2014年10月
169			田中博子, 漆畑真理, 馬場加那子, 石井 健, 関東裕美, 川那部岳志(大田区), 石河 晃:足底に生じた punctate porokeratotic keratoderma の1例. 第65回日本皮膚科学会西部支部学術大会, 高松, 2014.11.8(発表)	2014年11月
170			Yoshida K , Ishii K , Shimizu A , Yokouchi M , Amagai M ,Stanley JR , and Ishiko A: A	2014年12月

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

			combination of pemphigus foliaceus IgG monoclonal antibodies promotes desmoglein 1 clustering which induces synergistic pathogenic effect. The 39th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, 大阪, 2014.12.13	
171			Yoshida K, Ishii K, Shimizu A, Ishiko A : Anti-desmoglein 1 monoclonal antibody induces desmosome morphology change in the basal and spinous layers. 42nd Annual Meeting of Society for Cutaneous Ultrastructure Research, MANNHEIM, Germany, 2015.3.13	2015年3月
172			吉田憲司, 石井 健, 田中博子, 伊藤 崇, 臼井真理, 石河 晃: 落葉状天疱瘡患者に生じた脱毛発症機序の解析. 第114回日本皮膚科学会総会, 横浜, 2015,5.30	2015年5月
173			漆畑真理, 石井 健, 石河 晃: 結節型天疱瘡の3例. 第37回水疱症研究会, 福島, 2015.9.26	2015年9月
174			Yoshida K, Ishii K, Shimizu A, Yokouchi M, Amagai M, John R. Stanley, Ishiko A: p38 MAPK signaling is necessary for desmoglein 1 clustering and enhances pathogenic effect, but is not required for blistering in pemphigus foliaceus. 45th Annual ESDR Meeting, Rotterdam, The Netherlands, 2015.9.9-12	2015年9月
175			Aoyama Y, Kamiya K, Yamasaki O, Ishii K, Kmata A, Yamagami J, Tokura Y, Iwatuki K: Epitope reduction of anti-desmoglein 1 autoantibodies in pemphigus foliaceus patients sera during clinical stages. 40th Annual Meeting of Japanese Society for Investigative Dermatology, Okayama, 2015.12, 11-12	2015年12月
176			石河 晃: 教育講演. 水疱を形成する疾患. 第115回日本皮膚科学会総会. 京都. 2016.6.4	2016年4月
			馬場加那子, 関東裕美, 石川裕子, 吉田憲司, 釘持孝博(新生児), 荻原佐江子(新生児), 小原宏哉, 三井純雪, 石河 晃: Dowling Meara型単純型表皮水疱症の1例. 第43回皮膚かたち研究学会学術大会, 東京, 2016.6.19	2016年6月
177			Yoshida K, Ishii K, Shimizu A, Yokouchi M, Amagai M, John R. Stanley, Ishiko A: Polyclonal nature of pemphigus foliaceus IgG antibodies	2016年9月

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

			enhances pathogenic effect for blister formation in association with p38MAPK-dependent desmoglein 1 clustering. Pathogenesis of pemphigus and pemphigoid 2016 the open blister/mind meeting, Munich, Germany,2016.9	
178			石河晃:ランチョンセミナー 天疱瘡の病理学的解析による水疱発症機序の検討の検討. 埼玉. 第38回水疱症研究会.2016.11.27	2016年11月
179			漆畑真理, 石井 健, 布井春佳, 橋本由起, 石井文人(久留米大), 橋本 隆(同皮膚細胞生物学研究), 石河 晃:乾癬に生じた抗ラミニン α 3抗体陽性の表皮下水疱症の1例. 第38回水疱症研究会, 埼玉, 2016.11.27	2016年11月
180			Yoshida K , Ishii K , Shimizu A , Yokouchi M , Amagai M ,John R.Stanley , Ishiko A : p38MAPK contributes to loss of cell adhesion through clustering of desmoglein 1 but is not required for blistering in pemphigus foliaceus .The 41st Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, Sendai, 2016.12.9	2016年12月

<研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

ホームページで公開している場合には、URL を記載してください。

<既に実施しているもの>

第1回:

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業『自己免疫疾患の制御をめざす研究拠点形成』
平成26年度事業報告会: 平成27年3月25日、東京

- SATB1 遺伝子欠損による自己免疫疾患発症機構
田中ゆり子、近藤元就(免疫学講座)
- アレルギー疾患小児における好中球機能解析
遊佐貴司、宮崎修一(先端医科学研究センター)
- カンジダ菌体由来抽出物によるマウス系統的血管炎発症における TNF- α の関与
大原関利章、高橋 啓(病院病理学講座 (大橋))
- 病的細胞バイオマーカーによる自己免疫疾患細胞病態の解明
武城英明(臨床検査医学講座(佐倉))、
鈴木康夫(内科学講座消化器内科学分野(佐倉))
- 詳細な自己抗体解析による自己免疫性水疱症の病態解明
石井 健、吉田 憲司、石河 晃(皮膚科学講座(大森))
- 関節リウマチの病態とミッドカイン
川合 眞一、進藤恵実子、楠 夏子、蓮沼智子(内科学講座膠原病学分野(大森))

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

第2回:

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業『自己免疫疾患の制御をめざす研究拠点形成』
平成27年度事業報告会：平成28年3月25日、東京

- 自己免疫マウスにおけるEAE不応答性機構の解明
桑原 卓、近藤 元就 (免疫学講座)
- アレルギー誘発要因の1つである微生物に対する自然免疫応答
ーウイルスまたは細菌による感染症における解析ー
遊佐 貴司、宮崎 修一 (先端医科学研究センター)
- カンジダ細胞壁由来多糖誘導血管炎における血清サイトカインの検討
ー多項目同時測定システムを用いた検討ー
大原関 利章、高橋 啓 (病院病理学講座(大橋))
- 病的細胞バイオマーカーによる自己免疫疾患細胞病態の解明
武城 英明¹、鈴木康夫² (臨床検査医学講座(佐倉)¹、内科学講座消化器内科学分野(佐倉)²)
- 抗デスモグレイン1モノクローナル抗体を用いた落葉状天疱瘡の水疱形成機序の解析
吉田 憲司、石井 健、石河 晃 (皮膚科学講座(大森))
- ステロイド治療による骨形成抑制作用に関わるWnt シグナルの関与
川添 麻衣、鹿野 孝太郎、金子 開知、川合 眞一 (内科学講座膠原病学分野)

第3回:

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業『自己免疫疾患の制御をめざす研究拠点形成』
平成28年度事業報告会：平成29年3月23日、東京

- バイオマーカーによる細胞病態診断の可能性
寺井謙介¹、武城英明²、蛭田啓之¹、鈴木康夫³ (病理学講座(佐倉)¹、臨床検査医学講座(佐倉)²、内科学講座消化器内科学分野(佐倉)³)
- SATB1遺伝子欠損マウスにおける一次性シェーグレン症候群発症機構の解析
田中ゆり子、近藤元就(免疫学講座)
- 慢性臓器障害の間質線維化を抑制するmicroRNAの探索と機能解析
赤坂 喜清(先端医科学研究センター 推進研究部門 組織修復・病態制御学室)
- カンジダ細胞壁由来多糖誘導マウス系統的血管炎における自然免疫受容体の関与
大原関利章、高橋 啓(病院病理学講座 (大橋))
- 詳細な自己抗体解析による天疱瘡の水疱形成機序の解析
石井 健、吉田 憲司、石河 晃(皮膚科学講座(大森))
- 自己免疫疾患に対するステロイド療法と見かけの副腎抑制
川合眞一・藤尾夏樹・増岡正太郎・鹿野孝太郎・楠 夏子・南木敏宏
(内科学講座膠原病学分野)

<これから実施する予定のもの>

14 その他の研究成果等

「12 研究発表の状況」で記述した論文、学会発表等以外の研究成果及び企業との連携実績があれば具体的に記入してください。また、上記11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付してください。

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

--

15 「選定時」に付された留意事項とそれへの対応

<p><「選定時」に付された留意事項></p> <p>なし</p> <p><「選定時」に付された留意事項への対応></p>

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備考
		法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他()	
平成26年度	施設	0						
	装置	73,000	41,294	31,706				
	設備	93,596	35,850	57,746				
	研究費	20,013	10,013	10,000				
平成27年度	施設	0						
	装置	102,000	57,419	44,581				
	設備	0						
	研究費	20,006	10,006	10,000				
平成28年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	20,029	10,029	10,000				
総額	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	175,000	98,713	76,287	0	0	0	0
	設備	93,596	35,850	57,746	0	0	0	0
	研究費	60,048	30,048	30,000	0	0	0	0
総計	328,644	164,611	164,033	0	0	0	0	

17 施設・装置・設備の整備状況 (私学助成を受けたものはすべて記載してください。)

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)

(千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
研究基盤センター	H21	450 m ²	14	100人/週	147,000	73,500	
実験動物センター	S57	1,510 m ²	43	200人/週	-	-	
総合研究部実験センター	H16	614 m ²	15	200人/週	52,866	-	
免疫学講座	S47	272 m ²	8	28人/週	34,000	-	
大橋・総合研究部	H3	20 m ²	1	30人/週	-	-	
佐倉・総合研究部	H26	56 m ²	1	30人/週	-	-	

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

m²

法人番号	131069
プロジェクト番号	S1411015

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)

(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型番	台数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)							
実験動物飼育用特殊空調装置	H26.	UWXY1180D(ダイキン工業)	6台	8760 h	73,000	31,706	私学助成
		LH-13(新晃工業)	1台	8760 h			
実験動物飼育用清浄空気調和装置	H27.	LH-8(新晃工業)	1台	8760 h	102,000	44,581	私学助成
		LH-9(新晃工業)	1台	8760 h			
		LH-13(新晃工業)	1台	8760 h			
		CMF-3-No.4-SOB-B(テラル)	4台	8760 h			
		CLF-3-No.2-RS-B(テラル)	2台	8760 h			
(研究設備)							
MesoQuickPlexマルチタイムノアッセイシステム	H26.		1台	250 h	14,668	9,050	私学助成
Amersham Imager 600	H26.		1台	250 h	8,964	5,530	私学助成
島津質量分析システム	H26.	LCMS-8040	1台	250 h	24,764	15,279	私学助成
カールツァイス 共焦点レーザー स्क্যান顕微鏡	H26.	LSM700	1台	150 h	26,352	16,259	私学助成
凍結超薄切片作成システム(情報処理関係設備)	H26.	EM-UC7+EMFC	1台	150 h	18,848	11,628	私学助成

18 研究費の支出状況

(千円)

年度	平成 26 年度		
小科目	支出額	積算内訳	
		主な用途	金額
教育研究経費支出			
消耗品費	8,888	研究用試薬他	8,888
光熱水費			
通信運搬費	100	試薬送料他	100
印刷製本費	51	別刷代	51
旅費交通費	59	研究者学会出張費	59
報酬・委託料	198	委託費用他	198
(雑費他)	240	その他諸経費	240
計	9,536		
アルバイト関係支出			
人件費支出(兼務職員)	800		800
教育研究経費支出			
計	800		
設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	9,677		9,677
図書			
計	9,677		
研究スタッフ関係支出			
リサーチ・アシスタント			
ポスト・ドクター			
研究支援推進経費			
計	0		